

中期目標期間 事業報告書

自 平成18年4月 1日

至 平成24年3月31日

平成24年 6 月

公立大学法人福岡県立大学

中期目標期間（平成18年度から平成23年度まで）における実績概要

I 全体概要

本学は、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを最も重要な使命とし、学部生・大学院生の専門教育と地域密着型大学経営を運営方針とした戦略的法人運営を行ってきた。その基本的な考え方は、次の4点である。

- ① 保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持つ優秀な高度の職業人であるとともに、総合的マネジメントができる人材の育成
- ② 附属研究所を核として大学の保有する人材、知的財産、施設等を地域社会のために活用し、地域社会との交流、連携・協働による地域貢献と学際的研究プロジェクトの推進
- ③ 国際学术交流（中国、韓国）、海外短期研修（英国、豪州）、教職員・学生の国際交流の推進
- ④ 自律的経営を進め、教育と研究の質を高めるための外部資金の獲得
全般的に順調に計画を推進してきた。

教育においては、教養教育の充実、専門教育の充実、教員の教育能力の向上、成績評価、学生への支援を積極的に推進することができた。専門教育の充実では、文部科学省からの大型研究資金を平成20年度から3年連続で獲得できたことが、大きな原動力となった。

社会貢献においては、既存の「生涯福祉研究センター」に加え、平成18年度に「ヘルスプロモーション実践研究センター」を開設し、健康教育やリカレント教育等を充実させてきた。平成19年度には「不登校・ひきこもりサポートセンター」を新設、キャンパス・スクールを運営し、学生サポーターが活躍できる体制を作った。平成21年度には「社会貢献・ボランティア支援センター」を新設、学生によるボランティア活動支援体制を整備した。これら4センターを附属研究所内のセンターとして位置づけ、附属研究所を中心に置いた社会貢献事業を積極的に推進し、第三者評価において高い評価を得ることができた。平成22年度にはそれまで学長兼務であった附属研究所長を専任化して体制強化を図り、平成23年度には独立した建物を建設した。また平成18年度に福岡県立大学・田川地域連携推進協議会を設置し、大学に近接する地域社会の意見を吸収するなど、学外関係者のニーズの把握に努め、これに呼応する教職員・学生の活動によって地域住民が大学の事業に積極的に参加する体制を作った。平成22年度には、田川市・福岡県立大学包括連携協定を締結し、地域との連携強化を図った。

財務では、文部科学省等の大型研究資金が平成20年度から毎年採択され、外部研究資金を計画の3倍以上獲得することができた。こうした大型プロジェクトにより、教育活動や社会貢献事業を活発に行う事ができた。

II 項目別概要

1 教育

保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持つ優秀な高度の職業人の育成を目的とし、中期計画に沿った取組を推進してきた。結

果として、受験倍率を維持し、国家試験の高い合格率を維持している。特に社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験においては、全国平均を大きく上回る合格率を維持できている。就職率については、資格を伴わない学科における就職率の向上に課題を残している。中期目標期間の後半3年間では「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」（文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム(教育G P)」)、「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」（文部科学省の平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携プログラム」)、「就業力向上を目指す社会貢献プログラム」（文部科学省の平成22年度「大学生の就業力支援事業」）が採択された。「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」は、教育G Pの中でも文部科学省のヒアリングで高く評価され、全国のモデルとして紹介された。「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」は、九州沖縄の看護系14大学が連携し、看護系大学における共通課題解決のためにさまざまな取組を行い、全国から注目を集めた。「就業力向上を目指す社会貢献プログラム」では、キャリア教育の充実に積極的に取り組んだ。

2 研究

科学研究費補助金の採択を向上させるための説明会の実施、若手研究者の申請支援の取組を積極的に実施し、採択件数、獲得金額ともに目標を上回る成果を上げてきた。また、学内の研究奨励交付金制度により両学部連携の研究プロジェクト等に積極的に取り組むなど、目標を上回る実績を継続して達成できている。

3 社会貢献

「生涯福祉研究センター」と「ヘルスプロモーション実践研究センター」では、大学の知的資源を活用し、地域住民の健康の向上のための各種健康教育事業、資格・免許保持者等に対するリカレント教育等に積極的に取り組み、目標を大きく上回る実績を継続して上げることができた。また、平成19年度には、「不登校・ひきこもりサポートセンター」を新設し、平成20年度には、「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が教育G Pに採択され、平成22年度から「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」の授業を「両学部で学ぶ専門的連携科目」として位置づけた。「不登校・ひきこもりサポートセンター」が運営するキャンパス・スクールや学外の諸施設では、養成された学生が学生サポーターとして活躍している。さらに平成21年度には、社会に貢献できる人材育成を目的として、学内に「社会貢献・ボランティア支援センター」を新設し、学生に対して、ボランティア活動を積極的に推奨してきた。

また、「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業」（内閣官房・内閣府の平成20年度「地方の元気再生事業」）が採択された。

4 業務運営等

業務運営については、教育研究組織の見直し、戦略的な学内資金配分、個人業績評価システムの導入と給与への反映、経費抑制努力等を計画通り遂行した。

評価については、学生の授業評価アンケートの実施、教員業績一覧表の作成、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び独立行政法人大学評価・学位授与機構による認証評価を受審した。

情報公開については、大学ホームページをリニューアルし、大学情報を積極的に発信する仕組みを構築した。

項目別の状況

<p>中期目標 1. 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の個人業績評価制度と任期制を導入し、教育能力の向上と教育活動の活性化を図る。個人業績の評価は授業活動を中心として行い、その結果を人事や給与に反映させ、教員の職務へのインセンティブの付与を図る。</p> <p>(3) 優秀な学生の確保・育成 大学が求める優秀な学生を確保するため、高校訪問、出前講義、オープンキャンパスなどの広報活動を充実させ、高校生等に福岡県立大学の魅力を広く伝える。また、特待生制度の導入、入試方法の見直し、厳格な成績評価の実施などにより、優秀な学生を選抜し、育成する。 シラバスに、各科目の到達目標と成績評価基準を明確に示して学生の目標設定を容易にし、学生の学習意欲を高め、自主的な学習を促す。</p> <p>(4) 就職支援の充実 就職を希望する学生を支援するため、独自に企画したインターンシップの実施をはじめ、就職先開拓や求人情報の提供など、教職員が一体となって就職支援の充実を図る。 また、在学生だけでなく、卒後の未就職者に対しても支援を実施する。</p>
-----------------------	---

中期計画		計画の実施状況																												
項目	実施事項																													
<p>1 教養教育の充実 公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力及び自己表現能力の習得を目指す。</p>	<p>1 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養という視点から、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。</p> <p>○達成目標 ・改善した授業科目数 ：全教養科目 ・学生の成績 ：良以上80% ・学生による授業評価 ：4以上75% ・個人業績評価（授業活動） ：B評価以上75%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○カリキュラムと科目内容の検討・改編 ・平成18、19年度 教員・学生の意見や要望を調査し、各科目を「専門教育の基礎」、「社会人・職業人として身につけるべき教養」に分類。それぞれの科目分類に沿ったシラバス、授業内容を担当教員に依頼し徹底。生物学系科目について見直し、3科目を1科目へ統合 ・平成20、21年度 教養教育における学生のニーズを把握するために、新入学生を対象に高校での履修状況等の実態把握調査を実施。調査結果を集計し、基礎科目・教養教育における導入教育の必要性について検討。現行カリキュラムについて検討した結果、「生物学」の開講年次を変更した。 ・平成22、23年度 教養教育における導入教育の必要性等を検討するため、新入学生の高等学校における履修状況等について調査し、集計・分析した。新入学生を対象とした学習に関する意識調査を実施するとともに、過去数年の調査結果を分析した。</p> <p>○スキルアップゼミ 専門的職業人育成のための試験的コース、スキルアップゼミの開設を検討し、ビジネス現場での論理的思考と生の経済に関する講座を新たに開講。4講座まで拡大 ・平成19年度 2講座開講 ・平成20、21年度 各年度1講座追加 ・平成22、23年度 講座の見直しを図りながら4講座を継続</p> <p>○目標実績（実績はH19から）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>-</td> <td>85%</td> <td>84.7%</td> <td>87.7%</td> <td>89.5%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(良以上)</td> <td>-</td> <td>66%</td> <td>60.5%</td> <td>76.1%</td> <td>78.2%</td> <td>78.5%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)(B以上)</td> <td>(未実施)</td> <td>88%</td> <td>85.0%</td> <td>90.0%</td> <td>68.0%</td> <td>88.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※学生による授業評価は、平成22年度から良(C)以上、それ以前は4以上である。</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	-	85%	84.7%	87.7%	89.5%	100%	学生による授業評価(良以上)	-	66%	60.5%	76.1%	78.2%	78.5%	個人業績評価(授業活動)(B以上)	(未実施)	88%	85.0%	90.0%	68.0%	88.0%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
学生の成績良以上	-	85%	84.7%	87.7%	89.5%	100%																								
学生による授業評価(良以上)	-	66%	60.5%	76.1%	78.2%	78.5%																								
個人業績評価(授業活動)(B以上)	(未実施)	88%	85.0%	90.0%	68.0%	88.0%																								

中期計画		計画の実施状況																												
項目	実施事項																													
1 教養教育の充実の続き	<p>2 【教養演習の改善】 従来の教養演習を見直し、課題発見・解決能力、論理的思考力、自己表現能力をさらに高めるために授業内容と授業方法の継続的改善を行う。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 ：良以上80% ・学生による授業評価 ：4以上75% ・個人業績評価（授業活動） ：B評価以上75%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○教養演習の改善 ・平成18年度 教員や学生の意見や要望を集約した上で、従来の教養演習を見直し、課題発見・解決能力、論理的思考力、自己表現力を高めることを目的に全学共通教養演習テキストを執筆・出版し、ISBNを取得した。 ・平成19年度以降 教養演習テキストは毎年改訂・出版 ・全学教養演習担当者会議を開催し、演習の趣旨・指導法・評価基準等について教員の意識共有を図り、指導上の問題等についての相談を実施 ・全学部4学科ごとに学生に対する教養演習オリエンテーションを実施し、教養演習の目的・内容・方法を周知徹底 ・教養テキストをより学生に魅力あるものとするため、学生編集委員会を中心として毎年度企画・編集・出版している。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績(良以上)</td> <td>-</td> <td>99%</td> <td>100%</td> <td>97.9%</td> <td>99.6%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(良以上)</td> <td>-</td> <td>82%</td> <td>63.5%</td> <td>89.8%</td> <td>89.0%</td> <td>91.6%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)(B以上)</td> <td>(未実施)</td> <td>83%</td> <td>84.0%</td> <td>86.0%</td> <td>86.4%</td> <td>77.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※学生による授業評価は、平成22年度から良(C)以上、それ以前は4以上である。</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績(良以上)	-	99%	100%	97.9%	99.6%	100%	学生による授業評価(良以上)	-	82%	63.5%	89.8%	89.0%	91.6%	個人業績評価(授業活動)(B以上)	(未実施)	83%	84.0%	86.0%	86.4%	77.8%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
学生の成績(良以上)	-	99%	100%	97.9%	99.6%	100%																								
学生による授業評価(良以上)	-	82%	63.5%	89.8%	89.0%	91.6%																								
個人業績評価(授業活動)(B以上)	(未実施)	83%	84.0%	86.0%	86.4%	77.8%																								

中期計画		計画の実施状況																																						
項目	実施事項																																							
<p>2 専門教育の充実 専門教育は、本学の特色を活かし、社会福祉学、社会学、心理学、教育学、看護学といった専門分野だけでなく、相互に他の分野にも対処できる能力を育成する。 社会学科では地域社会における社会現象を実践的・理論的な視点から分析し、地域問題を創造的に改革できる人材を育成する。 社会福祉学科では、保健・看護・心理の基礎的知識を備えた社会福祉士、精神保健福祉士の専門職養成を図る。 人間形成学科では、生涯発達の視点から、心身の発達・成長と教育に関する理論を理解し、実践的に役立てることの出来る人材の育成を目指す。 看護学部では、健康問題に対して広い視野から柔軟に対応し、創造的な解決策を提案できる保健師・助産師・看護師・養護教諭の育成を目指す。 高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。</p>	<p>1 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討と改編を行う。</p> <p>○達成目標 ・改善科目数 ：全専門科目 ・学生の成績 ：良以上80% ・学生による授業評価 ：4以上75% ・個人業績評価（授業活動） ：B評価以上75%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○カリキュラムと科目内容の検討・改編 <人間社会学部> ・平成18年度 学部・学科の将来構想との関連でカリキュラムと科目内容の検討実施 ・平成20年度 社会学科を「公共社会学科」に名称変更し、カリキュラム改定 ・平成21年度 公共社会学科で2コース制の整備、キャリア支援プログラムの実施。社会福祉学科で経験型実習の試行、独自のインターンシップ実施。人間形成学科では体験的学習20科目を実施、効果をあげた。 ・平成22年度 再編・改組に向けワーキンググループにより「将来構想」を検討・作成 ・平成23年度 学長、2教員理事、学部長からなる検討会議で「構想案」を作成し、設立者である県（学事課）に提出</p> <p><看護学部> ・平成18年度 保健師助産師看護師法（以下「保助看法」）における指定規則の改正を視野に入れ、カリキュラムの見直し実施 ・平成19年度 カリキュラム検討ワーキンググループを立上げ、規則改正に伴う変更案と県立大学の特徴を出す科目の追加を検討 ・平成20年度 カリキュラム改正案を文部科学省に提出 ・平成21年度 新たな取組として、北京中医薬大学教員を招き、東洋看護の技術演習を実施。保助看法改正を受け、新カリキュラム案（学部教育の充実・保健師、助産師大学院教育）を策定 ・平成22年度 本学の独自性を出すため、北京中医薬大学の教員2名を招き「東洋看護技術演習」を行った。 ・平成23年度 保助看法改正を受けて作成した新カリキュラムを文部科学省に申請し受理された。</p> <p>○情報処理センター ・平成20年度以降 e-ラーニングシステムの導入に向けて学生へのアンケート調査、システム導入準備を検討 ・平成21年度以降 e-ラーニングシステムの導入を継続的に実施して65コースまで拡大（H23年度末時点） ・平成22、23年度 手引書を作成するとともにe-ラーニングシステムの講習会を開催して利用法の周知徹底を図った。</p> <p>○目標実績 （実績はH20から）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">人間社会学部</td> <td>学生の成績(良以上)</td> <td>88.5%</td> <td>89.5%</td> <td>89.0%</td> <td>90.9%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(良以上)</td> <td>63.5%</td> <td>73.8%</td> <td>80.1%</td> <td>83.3%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)(B以上)</td> <td>86.0%</td> <td>100%</td> <td>96.0%</td> <td>91.7%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">看護学部</td> <td>学生の成績(良以上)</td> <td>88.3%</td> <td>85.3%</td> <td>81.7%</td> <td>86.9%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(良以上)</td> <td>71.3%</td> <td>85.8%</td> <td>88.7%</td> <td>90.7%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)(B以上)</td> <td>88.0%</td> <td>91.0%</td> <td>96.2%</td> <td>96.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※学生による授業評価は、平成22年度から良(C)以上、それ以前は4以上である。</p>			H20	H21	H22	H23	人間社会学部	学生の成績(良以上)	88.5%	89.5%	89.0%	90.9%	学生による授業評価(良以上)	63.5%	73.8%	80.1%	83.3%	個人業績評価(授業活動)(B以上)	86.0%	100%	96.0%	91.7%	看護学部	学生の成績(良以上)	88.3%	85.3%	81.7%	86.9%	学生による授業評価(良以上)	71.3%	85.8%	88.7%	90.7%	個人業績評価(授業活動)(B以上)	88.0%	91.0%	96.2%	96.7%
		H20	H21	H22	H23																																			
人間社会学部	学生の成績(良以上)	88.5%	89.5%	89.0%	90.9%																																			
	学生による授業評価(良以上)	63.5%	73.8%	80.1%	83.3%																																			
	個人業績評価(授業活動)(B以上)	86.0%	100%	96.0%	91.7%																																			
看護学部	学生の成績(良以上)	88.3%	85.3%	81.7%	86.9%																																			
	学生による授業評価(良以上)	71.3%	85.8%	88.7%	90.7%																																			
	個人業績評価(授業活動)(B以上)	88.0%	91.0%	96.2%	96.7%																																			

中期計画		計画の実施状況																												
項目	実施事項																													
2 専門教育の充実	<p>2 【経験型実習の導入】 （看護学部、人間社会学部社会福祉学科） 地域の保健・福祉課題を自ら考え対処する能力を育成するため経験型実習を導入する。 基礎的な知識・技術を1・2年次で習得し、3・4年次の実習で現場を経験することで、専門知識や技術を柔軟に活用できる能力を育む。</p> <p>○達成目標 ・実習導入科目数 ：看護学部では現在（平成17年度）3領域の実習で実施。 今後、看護学部・人間社会学部の社会福祉学科では、全領域の実習を導入を目指す。</p> <p>・学生の成績 ：良以上80% ・学生による授業評価 ：4以上75% ・実習先アンケート ：良好評価75%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○経験型実習ワークショップ及び全領域対象の「実習調整会議」を実施し、実習教育の充実強化を図った。 （看護学部） ・基礎看護学・成人看護学・精神看護学の3領域で開始し、平成23年度には8領域（全領域）まで拡大（人間社会学部） ・「自主実習支援室」を開設 ・「社会福祉援助技術現場実習」において、2年次夏に社会福祉施設で3日間の経験型実習を実施</p> <p>○経験型実習ワークショップの実施について ・平成18年度 精神看護学領域で実施 ・平成19年度 新たに臨地実習施設との合同のワークショップを実施 ・平成20年度 全領域及び臨地実習施設との合同ワークショップを実施 ・平成21年度 学生の経験型教育の効果を確認するために「学びのカルテ」を作成 ・平成22、23年度 ワークショップ開催の他、全領域対象の「実習調整会議」を実施し、実習指導者と教員との共通理解を深めた。</p> <p>○助教・助手の実習指導力向上について ・平成20年度以降 新たな取組として、経験型実習教育の強化を目的とした助教・助手の学習会を、毎年継続して実施した。</p> <p>○臨床教授制の導入と実施について ・平成19年度 「福岡県立大学看護学部臨床教授等の称号付与規程」を作成 ・平成20年度 称号付与に必要な選考基準等を含んだ要綱を検討 ・平成21～23年度 看護師等に臨床教授の称号を付与</p> <p>○教員と臨地実習指導者との連携強化について ・平成19年度以降 「合同実習調整会議」を開催し、臨地実習指導者と情報の共有化を図り、今後の指導について意見交換を行った。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績(良以上)</td> <td>99%</td> <td>98%</td> <td>96.4%</td> <td>96.5%</td> <td>97.1%</td> <td>95.9%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(良以上)</td> <td>79%</td> <td>79%</td> <td>73.9%</td> <td>88.2%</td> <td>91.4%</td> <td>94.0%</td> </tr> <tr> <td>実習先アンケート評価(良好評価)</td> <td>(未実施)</td> <td>88%</td> <td>86.0%</td> <td>81.1%</td> <td>85.0%</td> <td>85.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※学生による授業評価は、平成22年度から良(C)以上、それ以前は4以上である。</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績(良以上)	99%	98%	96.4%	96.5%	97.1%	95.9%	学生による授業評価(良以上)	79%	79%	73.9%	88.2%	91.4%	94.0%	実習先アンケート評価(良好評価)	(未実施)	88%	86.0%	81.1%	85.0%	85.2%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
学生の成績(良以上)	99%	98%	96.4%	96.5%	97.1%	95.9%																								
学生による授業評価(良以上)	79%	79%	73.9%	88.2%	91.4%	94.0%																								
実習先アンケート評価(良好評価)	(未実施)	88%	86.0%	81.1%	85.0%	85.2%																								

中期計画		計画の実施状況																																			
項目	実施事項																																				
2 専門教育の充実の続き	<p>3 【情報教育の拡充を通じ、地域社会を多面的に考察できる人材を育成する教育の強化】（人間社会学部社会学科）</p> <p>社会学科のカリキュラムは、5つの系（現代社会系、情報系、地域系、公共福祉系、国際系）から構成されている。このうち、特に情報系を拡充し、流動的な社会的・文化的状況に関する情報を収集・分析し、各地域における社会問題を自ら発見し、かつ解決できる能力の強化を図る。具体的には、社会調査士資格取得に必要なカリキュラムを整え（平成17年度より開始）、情報収集・分析能力の強化を図りつつ、地域系や公共福祉系のカリキュラムと併せて、地方自治体・社会福祉協議会・福祉系NPOなどの地域・福祉マネジメント系の仕事に必要な力を習得させ、また、現代社会系や地域系を併せて、地域情報・教育産業・営業などの企画・情報系の仕事に必要な力を習得させる。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連資格取得者数：全員の取得 ・学生の成績：良以上80% ・学生による授業評価：4以上75% ・個人業績評価（授業活動）：B評価以上75% 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○公共社会学科への名称変更</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度 「公共社会学科」への改編を目指す方針決定 ・平成21年度 「公共社会学科」を設置し、「地域社会ネットワークコース」と「アジア国際共生コース」の2コース制を取り、5つのキャリア支援プログラムを開設 ・平成22年度 「公共社会学科」において、新カリキュラム（単位増加と新設）を実施 ・平成23年度 キャリア支援プログラムとして「ビジネススキルプログラム」他5つを実施 <p>○社会調査士資格取得に必要なカリキュラムの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 実習科目（2科目）の強化（担当教員1名→3名）、科目新設、名称変更の決定 ・平成20年度 社会調査士資格取得希望者の増加に伴い平成21年度から社会調査実習担当者を6名に増員 ・平成23年度 海外（韓国）での社会調査実習開講 <p>○社会調査及び資格制度に関するガイダンスの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度 オリエンテーション時にガイダンスを実施 ・平成21年度 新たにキャリア支援プログラムの「社会調査士資格取得支援プログラム」においても実施 ・平成22、23年度 各資格制度ごとに説明会を実施 <p>○社会調査関連科目の連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科目担当者間での情報交換会や協議を重ね、「教育検討会」において次の連携を決定 <p>①社会調査実習使用の調査票やデータを収集・保管・活用</p> <p>②社会統計学の教科書・社会調査関係図書を学生研究室に配置し、相互学習に役立てている。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会調査士資格取得者数</td> <td>全員取得</td> <td>全員取得</td> <td>全員取得</td> <td>全員取得</td> <td>全員取得</td> <td>全員取得</td> </tr> <tr> <td>学生の成績(良以上)</td> <td>100%</td> <td>98%</td> <td>100%</td> <td>97.7%</td> <td>95.3%</td> <td>90.6%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(良以上)</td> <td>71%</td> <td>71%</td> <td>83.6%</td> <td>89.7%</td> <td>78.2%</td> <td>89.4%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)(B以上)</td> <td>(未実施)</td> <td>100%</td> <td>67.0%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※学生による授業評価は、平成22年度から良(C)以上、それ以前は4以上である。</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	社会調査士資格取得者数	全員取得	全員取得	全員取得	全員取得	全員取得	全員取得	学生の成績(良以上)	100%	98%	100%	97.7%	95.3%	90.6%	学生による授業評価(良以上)	71%	71%	83.6%	89.7%	78.2%	89.4%	個人業績評価(授業活動)(B以上)	(未実施)	100%	67.0%	100%	100%	100%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
社会調査士資格取得者数	全員取得	全員取得	全員取得	全員取得	全員取得	全員取得																															
学生の成績(良以上)	100%	98%	100%	97.7%	95.3%	90.6%																															
学生による授業評価(良以上)	71%	71%	83.6%	89.7%	78.2%	89.4%																															
個人業績評価(授業活動)(B以上)	(未実施)	100%	67.0%	100%	100%	100%																															

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
2 専門教育の充実	<p>4 【実践力を身につけさせるための体験的学習の推進】 （人間社会学部人間形成学科） 地域住民の生涯発達を援助する実践的能力を高めるため、授業において、専門的知識の習得にとどまらず体験的学習場面を増加する。専門的知識や技術の実践的活用能力を高める。</p> <p>○達成目標 ・体験学習導入科目数 ：20科目以上 ・学生による授業評価 ：良好評価75%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 教員の意見、学生の履習状況と意見を集約し、8科目の試行的導入案作成 ・平成19年度 37科目について試行的導入 ・平成20年度 導入した37科目について導入効果、学生による評価の方法、導入場面の拡大等を検討 ・平成21年度 授業の目的、内容、導入効果から20科目に整理し、担当教員へのヒアリングで教育効果を上げていることを確認 ・平成22年度 導入科目を24科目に拡大 ・平成23年度 保育士・幼稚園教諭養成課程の改正に伴う授業内容変更等実施（導入科目数20科目を継続）
	<p>5 【他の学部・学科の専門領域を学べる教育プログラムの導入】 地域社会の保健・福祉課題の解決に向けて関連職種等と協働できる専門職業人を育成するため、他の専門領域を学ぶことができる教育プログラムを設置する。</p> <p>①看護領域の学生は福祉領域・心理領域の分野、福祉領域の学生は看護領域・心理領域の分野、保育系の学生は看護領域・心理領域の分野を学ぶなど。 ②また、両学部の学生が、専門性の違いから来る認識の違いや、相互連携の必要性等を一緒に学習する教育プログラムを平成21年度の実施に向けて検討する。</p> <p>○達成目標 ・設定科目数 ：すべての必要な領域間で設置 ・学生の成績 ：良以上80% ・学生による授業評価 ：4以上 75% ・個人業績評価（授業活動）</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○他の学部の専門分野を学ぶ教育プログラムについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 各専門職者が他の専門性を学ぶことの意義を共有し、具体的な授業科目案を検討 ・平成19年度 保育・看護の連携教育プログラムとして「看護と保育」、「総合演習」を実施 ・平成20年度 「高齢者の福祉と看護」他の専門職連携教育プログラムとして4つの講義を実施 ・平成21、22年度 4つの講義を実施 ・平成23年度 8つの講義を実施 <p>○両学部の学生が連携の必要性を一緒に学習する教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 プログラム導入のため、保育・看護・福祉の現場が抱える課題について検討 ・平成19年度 実施内容、対象学年、実施時期などを検討 ・平成20年度 試行的に看護学部及び人間社会学部の1年次生を対象に、「社会貢献学」を4回開講 ・平成21年度 「社会貢献学」を授業として開講 ・平成22年度 「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」を単位認定科目として開講 ・平成23年度 社会貢献フォーラムⅠ、Ⅱで社会貢献論・演習の成果を発表 <p>○目標実績(H23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績：良以上99.7% ・学生による授業評価：3以上 81.6% ・個人業績評価（授業活動）：B評価以上 100%

中期計画		計画の実施状況																			
項目	実施事項																				
2 専門教育の充実	<p>6 【実践的で高度な専門職業人育成の推進】（人間社会学部大学院）</p> <p>①人間社会学研究科修士課程を、時代のニーズに対応するため、社会福祉専攻、心理臨床専攻、地域教育支援専攻の三専攻に再編する。</p> <p>②人間社会学研究科修士課程における心理臨床専攻での臨床心理士第二種を第一種に変更する。</p> <p>○達成目標 ・受験倍率 ：2.5倍以上</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○実践的で高度な専門職業人育成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 大学院人間社会学研究科修士課程の再編準備（3専攻に改編） ・平成19年度 大学院人間社会学研究科心理臨床専攻の整備計画の策定・実施（「臨床心理士第一種」指定のため） ・平成20、21年度 日本臨床心理士認定協会指定大学院（第一種指定校）認定に向けた整備・準備作業実施 ・平成22年度 日本臨床心理士認定協会指定大学院第一種指定校として認定（平成20年度入学者へ遡及適用の措置） ・平成22、23年度 日本臨床心理士認定協会指定大学院第一種指定校として運営するとともに、相談料金の徴収を実施 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験倍率</td> <td>1.33倍</td> <td>1.90倍</td> <td>1.40倍</td> <td>1.25倍</td> <td>2.00倍</td> <td>2.27倍</td> </tr> </tbody> </table>							H18	H19	H20	H21	H22	H23	受験倍率	1.33倍	1.90倍	1.40倍	1.25倍	2.00倍	2.27倍
		H18	H19	H20	H21	H22	H23														
受験倍率	1.33倍	1.90倍	1.40倍	1.25倍	2.00倍	2.27倍															
<p>7 【実践的で高度な専門職業人育成の推進】（看護学部大学院）</p> <p>看護学部看護に特化した大学院修士課程を設置する。</p> <p>修士課程に一般研究コース、専門看護師コース及び助産師コースを設置する。</p> <p>○達成目標 ・受験倍率 ：2.5倍以上</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○実践的で高度な専門職業人の育成を目的に、大学院を開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度の認可を経て、翌19年度大学院に研究コースと専門看護師コース（がん看護）を開設 <p>○専門看護師コース（がん看護）の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度 看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会より認可。実習体制整備のため、がん看護専門看護師(CNS)が勤務する病院の実習施設を確保 ・平成21年度 大学院修了の1期生2名にがん看護専門看護師の認定（合格率100%（全国合格率89%）） <p>○修士課程の指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度 F D活動による教員の指導力強化（研究能力を高める学習会・ポートフォリオ学習会等開催） <p>○新たな専門看護師コースの開設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度 精神看護専門看護師コース開設 ・平成23年度 以下の課程認定に向け準備 平成24年申請 専門看護師コース（精神看護）課程 平成25年申請 専門看護師コース（老年看護）課程 <p>○指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文指導の充実に向けて、「研究倫理委員会」への申請、領域ごとの研究計画発表会を実施 ・平成21年度 教員確保により研究コースに新たに小児看護学分野を追加。学生のニーズにより「データ解析演習」の科目追加 <p>【新たな取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○専門看護師コース拡充のため、担当教員の臨床研修体制を構築 ○平成21年7月保助看法改正に伴い、上級実践コース（助産師及び保健師養成コース）開設準備 ○平成21年度 学生向け修士論文作成要綱とフロー図、履修モデル、修士論文評価基準、在学特例適用、申請書類等を作成し、学生が理解しやすいよう、すべてを「履修の手引き」に掲載した。 																				

中期計画		計画の実施状況																												
項目	実施事項																													
2 専門教育の充実の続き	7	<p>【実践的で高度な専門職業人育成】</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験倍率(受験者/合格者)</td> <td>1.30倍</td> <td>1.17倍</td> <td>1.33倍</td> <td>3.60倍</td> <td>1.29倍</td> <td>1.07倍</td> </tr> <tr> <td>受験者 / 定員</td> <td>1.08倍</td> <td>1.17倍</td> <td>1.00倍</td> <td>1.50倍</td> <td>0.75倍</td> <td>1.25倍</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>13人</td> <td>14人</td> <td>12人</td> <td>18人</td> <td>9人</td> <td>15人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※定員は12名</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	受験倍率(受験者/合格者)	1.30倍	1.17倍	1.33倍	3.60倍	1.29倍	1.07倍	受験者 / 定員	1.08倍	1.17倍	1.00倍	1.50倍	0.75倍	1.25倍	受験者数	13人	14人	12人	18人	9人	15人
		H18	H19	H20	H21	H22	H23																							
受験倍率(受験者/合格者)	1.30倍	1.17倍	1.33倍	3.60倍	1.29倍	1.07倍																								
受験者 / 定員	1.08倍	1.17倍	1.00倍	1.50倍	0.75倍	1.25倍																								
受験者数	13人	14人	12人	18人	9人	15人																								
	8	<p>【社会人の大学院生が学びやすい授業形態の導入】</p> <p>社会人が離職しないで大学院での学業が続けられるように、夜間や休日の開講、e-ラーニング等を検討する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人受験者数 ：受験倍率3倍以上 <p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○社会人学生が学びやすい大学院の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開設時から社会人に対応したカリキュラムを作成し、平日の夜間と土曜、休日に授業を開講 ・平成20年度 e-ラーニングのコンテンツをホームページに掲載し翌21年度にはコア科目をe-ラーニング化 ・平成22年度 長期履修制度を導入し、翌23年度から実施、同年度4名の履修生を得て全員が計画的に履修した。 <p>【新たな取組】</p> <p>○看護学研究科内にワーキンググループを設置し、以下の導入を決定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・秋季修了制度 ・長期履修制度 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験倍率</td> <td>1.08倍</td> <td>1.20倍</td> <td>1.30倍</td> <td>3.60倍</td> <td>1.29倍</td> <td>1.07倍</td> </tr> <tr> <td>社会人学生へのアンケート (満足度「中」以上)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3.4</td> <td>85%</td> <td>85%</td> <td>75%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※社会人学生へのアンケートは、当初5段階評価、平成21年度から%表示</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	受験倍率	1.08倍	1.20倍	1.30倍	3.60倍	1.29倍	1.07倍	社会人学生へのアンケート (満足度「中」以上)	-	-	3.4	85%	85%	75%							
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
受験倍率	1.08倍	1.20倍	1.30倍	3.60倍	1.29倍	1.07倍																								
社会人学生へのアンケート (満足度「中」以上)	-	-	3.4	85%	85%	75%																								
3 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る。	1	<p>【学生の授業活動評価の実施】</p> <p>学生の授業活動評価を授業の改善に活かす。</p> <p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○授業アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 項目の分析、見直しを実施 ・平成19年度 項目及び内容構成の見直しを実施 ・平成20年度 新たにFD部会が担当し、平成20、21、22年度と内容の見直しを実施 ・平成23年度 改善効果について京都大学高等教育推進センター教授との協議を経て今後の方針決定 <p>○調査報告書の発刊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度調査報告書を刊行 ・平成21年度 平成18～20年度の比較分析の調査報告書を刊行 <p>○教員へのフィードバック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度 FDへの活用を目的に教員に対し結果をフィードバックした。 ・平成20～23年度 毎年、科目別結果をフィードバックした。 																												

中期計画		計画の実施状況																																																	
項目	実施事項																																																		
3 教員の教育能力の向上の続き	2 【教員の個人業績評価制度及び任期制の導入】 ①評価対象を教育（FD活動を含む。）・研究・地域貢献・学内運営とし、各分野のウエイト付け、各評価項目の評価基準及び評価者の確定、評価項目に応じた評価期間の設定等を行う。 ②評価結果を給与に反映させる。 ③全教員を対象とした任期制を導入する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○教員個人業績評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年度4月に自己申告書を提出、6～7月に一次及び二次評価を実施、8月に結果通知、12月に評価結果を給与に反映 <p>○任期制の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・承継教員（定年制適用）には、任期制移行申出期間を設定 ・新規採用教員には全て任期制を適用 <p>○任期制教員の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>任期制教員の割合</td> <td>52.9%</td> <td>42.5%</td> <td>45.7%</td> <td>51.4%</td> <td>57.3%</td> <td>58.3%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	任期制教員の割合	52.9%	42.5%	45.7%	51.4%	57.3%	58.3%																																			
		H18	H19	H20	H21	H22	H23																																												
任期制教員の割合	52.9%	42.5%	45.7%	51.4%	57.3%	58.3%																																													
3	<p>【FD活動の強化】</p> <p>ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会等教員参加率：100% ・学生による授業評価：4以上75% ・個人業績評価（授業活動）：B評価以上75% ・他の教員も使用できる教材・学習方法の開発：19年度以降年間2件 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○教員の教育能力の向上のため、学部、大学院がそれぞれの特徴に応じ、積極的にFD活動に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FDセミナー開催、他大学FDセミナーへの教員派遣、関連図書整備、FD活動年報の刊行、学生との座談会等を実施 ・学部FD活動では両学部が一体となったFD活動に取り組み、教材開発でも成果を上げた。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FDセミナー開催</td> <td>6回</td> <td>6回</td> <td>4回</td> <td>5回</td> <td>7回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>FDセミナー参加率</td> <td>—</td> <td>81.0%</td> <td>65.9%</td> <td>60.5%</td> <td>81.1%</td> <td>82.3%</td> </tr> <tr> <td>他大学FD派遣</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>5回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価(4以上)</td> <td>77%</td> <td>76%</td> <td>72.8%</td> <td>78.5%</td> <td>82.5%</td> <td>84.9%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)(B以上)</td> <td>—</td> <td>74%</td> <td>87.0%</td> <td>96.0%</td> <td>96.1%</td> <td>94.4%</td> </tr> <tr> <td>他の教員も使用できる教材開発</td> <td>0件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	FDセミナー開催	6回	6回	4回	5回	7回	3回	FDセミナー参加率	—	81.0%	65.9%	60.5%	81.1%	82.3%	他大学FD派遣	4回	4回	4回	5回	3回	3回	学生による授業評価(4以上)	77%	76%	72.8%	78.5%	82.5%	84.9%	個人業績評価(授業活動)(B以上)	—	74%	87.0%	96.0%	96.1%	94.4%	他の教員も使用できる教材開発	0件	2件	2件	2件	2件	2件
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
FDセミナー開催	6回	6回	4回	5回	7回	3回																																													
FDセミナー参加率	—	81.0%	65.9%	60.5%	81.1%	82.3%																																													
他大学FD派遣	4回	4回	4回	5回	3回	3回																																													
学生による授業評価(4以上)	77%	76%	72.8%	78.5%	82.5%	84.9%																																													
個人業績評価(授業活動)(B以上)	—	74%	87.0%	96.0%	96.1%	94.4%																																													
他の教員も使用できる教材開発	0件	2件	2件	2件	2件	2件																																													

中期計画		計画の実施状況																																																																						
項目	実施事項																																																																							
<p>4 学生の確保 健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲を持つ学生を質量共に確保する。</p>	<p>1 【特待生などより質の高い学生の確保】 ①アドミッションポリシーに合った入学試験制度の改善を行う。 センター入試で基礎学力の高い学生を確保し、推薦入試、前期・後期等、大学独自の入試では、受験生の意欲や将来の夢を引き出す工夫をする。 ②特待生制度を導入する。 特待生制度（成績優秀者への授業料減免）を広報活動を通じて積極的にPRする。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験の実施方法の改善 ：センター入試科目の増加 ・受験倍率 ：4.5倍以上 ・辞退率＝辞退者数/合格者数（追加除） ：15%以下 ・センターランク ：70%以上 ・特待生受験倍率 ：5倍以上 ・特待生辞退率＝辞退者数/合格者数（追加除） ：0%以下 ・在学生の平均成績 ：良以上80% ・国家試験合格率 ：社会福祉士65% ：精神保健福祉士65% ：看護師100% ：保健師95% ：助産師100% 	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○アドミッションポリシーについて <学部> ・平成19年度 「入試制度検討小委員会」を設置し、大学全体及び各学部のアドミッションポリシーを作成 ・平成20、21年度 入試広報活動のあらゆるメディアと機会を通じて、普及・広報活動を実施 ・平成21年度 改訂版アドミッションポリシーを作成 ・平成22年度 普及・広報活動を実施 ・平成23年度 改訂版の広報強化策として夏のオープンキャンパスで進路指導担当教諭等に直接説明する取組を行った。</p> <p><大学院> ・平成20年度 看護学研究科のアドミッションポリシーを作成 ・平成21年度 人間社会学研究科のアドミッションポリシーを作成し、両研究科ともに入試要項に掲載した。</p> <p>○入学試験制度の改善に関して <学部> ・平成19年度 人間社会学部の平成22年度入試を目標にセンター試験利用科目の見直し実施 ・平成20年度入試より、看護学部では、一般入試・後期日程の試験会場を福岡市内にも設置 ・平成20年度 看護学部では、平成22年度入試を目標に試験科目の変更を含む包括的な入試改革案を策定 ・平成21年度入試より、両学部ともに、一般入試・前期日程の試験会場を鹿児島市内にも設置 ・平成21年度入試より、両学部ともに、追試験制度を導入 ・平成21年度 面接要項を作成し、普及・広報活動を実施 ・平成21年度 看護学部では、一般入試以外の入試において、従来の全受験科目の合計点のみによる合否判定に加えて、受験科目ごとの合格最低基準点を設けることとした（平成23年度入試で実施）。 ・平成23年度 質の高い学生確保のため、調査研究を行い、報告書「入試制度改善システムの検討について」を作成した。</p> <p><大学院> ・平成20年度 大学院入学試験部会を新たに設置し、大学院入学試験制度改善のための体制を整えた。 ・平成21年度 長期履修制度の導入について検討 ・平成23年度 人間社会学研究科においても長期履修制度を改正し、希望可能とした。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受験倍率</td> <td>3.2倍</td> <td>3.1倍</td> <td>4.1倍</td> <td>3.1倍</td> <td>3.3倍</td> <td>3.3倍</td> </tr> <tr> <td>辞退率(辞退者/合格者数)</td> <td>23.9%</td> <td>21.8%</td> <td>18.0%</td> <td>21.0%</td> <td>18.5%</td> <td>20.6%</td> </tr> <tr> <td>在学生の平均成績:良好80%</td> <td>(不明)</td> <td>86%</td> <td>96.1%</td> <td>86.2%</td> <td>88.0%</td> <td>89.6%</td> </tr> <tr> <td>国家試験合格率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 社会福祉士</td> <td>86.0%</td> <td>80.4%</td> <td>90.0%</td> <td>74.6%</td> <td>83.0%</td> <td>81.5%</td> </tr> <tr> <td> 精神保健福祉士</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td> 看護師</td> <td>94.5%</td> <td>91.6%</td> <td>97.4%</td> <td>100%</td> <td>98.7%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td> 保健師</td> <td>98.9%</td> <td>83.8%</td> <td>98.9%</td> <td>84.9%</td> <td>88.9%</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td> 助産師</td> <td>87.5%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>75.0%</td> <td>90.0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※特待生制度の導入については、より効果のある制度構築のため、導入を保留した。</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	受験倍率	3.2倍	3.1倍	4.1倍	3.1倍	3.3倍	3.3倍	辞退率(辞退者/合格者数)	23.9%	21.8%	18.0%	21.0%	18.5%	20.6%	在学生の平均成績:良好80%	(不明)	86%	96.1%	86.2%	88.0%	89.6%	国家試験合格率							社会福祉士	86.0%	80.4%	90.0%	74.6%	83.0%	81.5%	精神保健福祉士	100%	100%	100%	100%	100%	95.2%	看護師	94.5%	91.6%	97.4%	100%	98.7%	100%	保健師	98.9%	83.8%	98.9%	84.9%	88.9%	90.5%	助産師	87.5%	100%	100%	75.0%	90.0%	100%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																		
受験倍率	3.2倍	3.1倍	4.1倍	3.1倍	3.3倍	3.3倍																																																																		
辞退率(辞退者/合格者数)	23.9%	21.8%	18.0%	21.0%	18.5%	20.6%																																																																		
在学生の平均成績:良好80%	(不明)	86%	96.1%	86.2%	88.0%	89.6%																																																																		
国家試験合格率																																																																								
社会福祉士	86.0%	80.4%	90.0%	74.6%	83.0%	81.5%																																																																		
精神保健福祉士	100%	100%	100%	100%	100%	95.2%																																																																		
看護師	94.5%	91.6%	97.4%	100%	98.7%	100%																																																																		
保健師	98.9%	83.8%	98.9%	84.9%	88.9%	90.5%																																																																		
助産師	87.5%	100%	100%	75.0%	90.0%	100%																																																																		

中期計画		計画の実施状況																																																																						
項目	実施事項																																																																							
4 学生の確保の続	<p>2 【積極的な広報活動】</p> <p>パンフレット、入試説明会、出前講義、オープンキャンパス、ホームページ、大学祭など広報活動を改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学紹介のパンフレットの内容を改善する。 ・入試説明会、出前講義の依頼には積極的に応じて大学をPRする。 ・オープンキャンパスは毎年アンケートをとり、実施内容を評価しながら改善に取り組む。 ・ホームページの更新、内容の工夫をする。 ・大学祭など大学に外来者が来訪する機会を捉えて、パンフレット配布等のPRを行う。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート ：1,000名以上、良好評価75%以上 ・ホームページのアクセス数 ：2,000件以上 ・入試説明会参加数及びアンケート ：7会場、良好評価75%以上 ・訪問高校数及びアンケート ：20校、良好評価75%以上 ・出前講義数及びアンケート ：20校、良好評価75%以上 ・志願者数（志願倍率） ：1,334人（5.8倍以上） ・受験者数（受験倍率） ：1,035人（4.5倍以上） 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○学生確保のための取組として、オープンキャンパスの複数開催、入試説明会、高校訪問、出前講義などを積極的に実施 その他の広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度以降 携帯電話によるホームページへのアクセス、入試に関する問い合わせメールの開設、入試情報公表（志願状況・合格発表） ・平成20年度以降 高校からの推薦入試枠を各学科1名から2名に増加、前期入試会場については、これまで3ヶ所開催だったが、鹿児島会場を追加し、4ヶ所とした。 ・平成21年度 ホームページの全面リニューアル実施、大学及び両学部のアドミッションポリシーを受験生がアクセスしやすい場所に移動 ・平成22、23年度 オープンキャンパス時に高校教員対象の受験指導セミナーを実施。小倉駅での電照広告を実施 ・平成23年度 オープンキャンパス時に高校の先生対象の受験指導セミナーに加え、個別面談を新たに実施 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス</td> <td>1,127人(2回)</td> <td>1,065人(3回)</td> <td>1,018人(2回)</td> <td>1,253人(2回)</td> <td>1,387人(2回)</td> <td>1,463人(2回)</td> </tr> <tr> <td>入試説明会</td> <td>18回</td> <td>13回</td> <td>14回</td> <td>12回</td> <td>15回</td> <td>13回</td> </tr> <tr> <td>高校訪問</td> <td>27回</td> <td>21回</td> <td>25回</td> <td>90回 (公共社会学科67回 分を含む)</td> <td>73回 (公共社会学科49回 分を含む)</td> <td>61回 (公共社会学科33回 分を含む)</td> </tr> <tr> <td>出前講義</td> <td>23回</td> <td>25回</td> <td>22回</td> <td>26回</td> <td>22回</td> <td>22回</td> </tr> <tr> <td>ホームページアクセス数</td> <td>207,936件</td> <td>224,480件</td> <td>257,428件</td> <td>420,096件</td> <td>211,158件</td> <td>209,171件</td> </tr> <tr> <td>高校訪問アンケート(良好評価)</td> <td>-</td> <td>96.9%</td> <td>99.0%</td> <td>99.0%</td> <td>99.2%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>出前講座アンケート(良好評価)</td> <td>-</td> <td>96.6%</td> <td>98.0%</td> <td>96.0%</td> <td>94.9%</td> <td>97.6%</td> </tr> <tr> <td>志願者数</td> <td>1,487人</td> <td>1,465人</td> <td>1,800人</td> <td>1,459人</td> <td>1,421人</td> <td>1,461人</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>1,118人</td> <td>1,100人</td> <td>1,371人</td> <td>1,109人</td> <td>1,093人</td> <td>1,070人</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	オープンキャンパス	1,127人(2回)	1,065人(3回)	1,018人(2回)	1,253人(2回)	1,387人(2回)	1,463人(2回)	入試説明会	18回	13回	14回	12回	15回	13回	高校訪問	27回	21回	25回	90回 (公共社会学科67回 分を含む)	73回 (公共社会学科49回 分を含む)	61回 (公共社会学科33回 分を含む)	出前講義	23回	25回	22回	26回	22回	22回	ホームページアクセス数	207,936件	224,480件	257,428件	420,096件	211,158件	209,171件	高校訪問アンケート(良好評価)	-	96.9%	99.0%	99.0%	99.2%	100%	出前講座アンケート(良好評価)	-	96.6%	98.0%	96.0%	94.9%	97.6%	志願者数	1,487人	1,465人	1,800人	1,459人	1,421人	1,461人	受験者数	1,118人	1,100人	1,371人	1,109人	1,093人	1,070人
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																		
オープンキャンパス	1,127人(2回)	1,065人(3回)	1,018人(2回)	1,253人(2回)	1,387人(2回)	1,463人(2回)																																																																		
入試説明会	18回	13回	14回	12回	15回	13回																																																																		
高校訪問	27回	21回	25回	90回 (公共社会学科67回 分を含む)	73回 (公共社会学科49回 分を含む)	61回 (公共社会学科33回 分を含む)																																																																		
出前講義	23回	25回	22回	26回	22回	22回																																																																		
ホームページアクセス数	207,936件	224,480件	257,428件	420,096件	211,158件	209,171件																																																																		
高校訪問アンケート(良好評価)	-	96.9%	99.0%	99.0%	99.2%	100%																																																																		
出前講座アンケート(良好評価)	-	96.6%	98.0%	96.0%	94.9%	97.6%																																																																		
志願者数	1,487人	1,465人	1,800人	1,459人	1,421人	1,461人																																																																		
受験者数	1,118人	1,100人	1,371人	1,109人	1,093人	1,070人																																																																		

中期計画		計画の実施状況																																																	
項目	実施事項																																																		
<p>5 成績評価 公立大学法人福岡県立大学では、十分な教育と厳格な成績評価を行い、社会福祉士、保育士、臨床心理士、精神保健福祉士、幼稚園教諭、看護師、保健師、助産師、養護教諭、高校教諭（公民）としての知識・技術を確実に身につけた専門職業人を育成する。</p>	<p>1 【厳格な成績評価の実施】 ①学生の質を高めるため、より厳格な成績評価を実施する。 ・成績評価基準を設定し、シラバスへの記載等により学生への周知を図る。 ・成績評価基準や成績評価の実施状況を定期的に点検・評価し、改善を図る。 ②GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度導入を前提に、その仕組み、活用方法を検討する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 ：良以上80% ・国家試験合格率 ：社会福祉士65% ：精神保健福祉士65% ：看護師100% ：保健師95% ：助産師100%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○厳格な成績評価の実施 ・平成18、19年度 GPA部会開催、先進的事例3大学の調査、本学教員に対するアンケート調査を実施し、本学におけるGPA制度の仕組み・活用方法を検討し、GPA部会報告書の作成、平成20年度からの試行的導入案等の作成 ・平成20年度 GPA制度を試行導入し、学生、教員への周知徹底、GPA評価制度の運用に必要な教務電算システムの変更・機能拡張の実施、GPA活用案について各学部学科に応じた具体的支援の活用方法を検討 ・平成21年度 GPA制度の本格運用開始。教務電算システムを導入し、5段階評価を行った。福岡県立大学GPA運用細則を作成し、両学部でGPAに基づいた学習支援要領を作成 ・平成22、23年度 学生便覧、GPA及びGPAに基づいた学生支援についてオリエンテーションで周知・徹底 ・平成23年度 GPA得点の高得点者の表彰を検討し、表彰を実施</p> <p>○国家試験対策（平成19～23年度） ・人間社会学部では、社会福祉士の国家試験対策として、毎週水曜日午後2時間の国家試験対策講座を実施 ・看護学部では、模擬試験下位の学生への対策と受験生全員対象の対策として、内・外講師による補講、e-ラーニング・Web活用の自主学习システム、ゼミ教員による学習・相談指導体制、模擬試験・低学年模擬試験等を実施</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国家試験合格率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会福祉士</td> <td>86.0%</td> <td>80.4%</td> <td>90.0%</td> <td>74.6%</td> <td>83.0%</td> <td>81.5%</td> </tr> <tr> <td>精神保健福祉士</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>94.5%</td> <td>91.6%</td> <td>97.4%</td> <td>100%</td> <td>98.7%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>98.9%</td> <td>83.8%</td> <td>98.9%</td> <td>84.9%</td> <td>88.9%</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>87.5%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>75.0%</td> <td>90.0%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	国家試験合格率							社会福祉士	86.0%	80.4%	90.0%	74.6%	83.0%	81.5%	精神保健福祉士	100%	100%	100%	100%	100%	95.2%	看護師	94.5%	91.6%	97.4%	100%	98.7%	100%	保健師	98.9%	83.8%	98.9%	84.9%	88.9%	90.5%	助産師	87.5%	100%	100%	75.0%	90.0%	100%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
国家試験合格率																																																			
社会福祉士	86.0%	80.4%	90.0%	74.6%	83.0%	81.5%																																													
精神保健福祉士	100%	100%	100%	100%	100%	95.2%																																													
看護師	94.5%	91.6%	97.4%	100%	98.7%	100%																																													
保健師	98.9%	83.8%	98.9%	84.9%	88.9%	90.5%																																													
助産師	87.5%	100%	100%	75.0%	90.0%	100%																																													

中期計画		計画の実施状況																																																																													
項目	実施事項																																																																														
6 学生への支援 入学から卒業までの キャリア支援体制を 充実させ、学習・就 職活動を支援する。	1 【入学から卒業までのキャリア 支援体制の構築】 ①担当職員の専門性の向上など により、キャリア形成支援に関 する事務局体制を強化する。 ②インターンシップの拡充など により、学生のキャリア形成を 入学から卒業まで一貫して持続 的に支援する。 ③キャリア支援講座の実施 ○達成目標 ・企業・病院・施設等就職先訪 問数及びアンケート ：60件以上、良好評価75%以 上 ・インターンシップ参加者数 (率) ：10%増（平成17年度比） ・インターンシップ先アンケー ト ：良好評価75%以上 ・キャリア支援講座参加者アン ケート ：良好評価75%以上 ・就職率 ：95%以上	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○キャリア形成支援に関する事務局体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 「キャリアサポートセンター」設置後、スタッフ配置日数を徐々に増加させるとともに機能向上を図った。さらに、キャリアサポート講座の開催やその充実強化、体制強化を図ったことで利用件数が着実に増加した。 <p>○インターンシップ等、低学年からの一貫したキャリア形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度以降 インターンシップや各種就職ガイダンスを拡大させ、公務員・保育士・病院等就職ガイダンスを開催 <p>○キャリア支援講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度 キャリア形成講座を実施「大学生のためのキャリアガイドブック」の作成・配布を開始 ・平成20年度以降 キャリア支援グループワークを新入生合宿フォーラムで継続実施 ・平成21年度以降 1年生対象のキャリア支援講座を2回実施 ・平成22年度以降 2年生対象のキャリア支援講座（Ⅲ）を開催 ・各学部で懇話会を開催し、教員と学生のコミュニケーションを深め、キャリア形成支援に役立てた。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スタッフ配置日数</td> <td>週3日</td> <td>週4日</td> <td>週4日</td> <td>週5日</td> <td>週5日</td> <td>週5日</td> </tr> <tr> <td>就職先訪問数</td> <td>11か所</td> <td>30か所</td> <td>29か所</td> <td>40か所</td> <td>25か所</td> <td>27か所</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">就職先アンケート 〈良好以上評価〉</td> <td>人間社会学部</td> <td>未実施</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>停止</td> <td>停止</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td></td> <td></td> <td>90.0%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就職率(%)</td> <td>人間社会学部</td> <td>93.6%</td> <td>93.8%</td> <td>94.2%</td> <td>91.8%</td> <td>91.4%</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>98.9%</td> <td>95.7%</td> <td>95.6%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td>大学全体</td> <td>95.8%</td> <td>94.5%</td> <td>94.7%</td> <td>94.9%</td> <td>94.6%</td> <td>92.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>インターンシップ</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>21人</td> <td>29人</td> <td>41人</td> <td>36人</td> <td>43人</td> <td>27人</td> </tr> <tr> <td>企業数</td> <td>18社</td> <td>26社</td> <td>35社</td> <td>34社</td> <td>35社</td> <td>25社</td> </tr> <tr> <td>アンケート良好評価</td> <td>94.7%</td> <td>96.6%</td> <td>100%</td> <td>96.8%</td> <td>97.7%</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	スタッフ配置日数	週3日	週4日	週4日	週5日	週5日	週5日	就職先訪問数	11か所	30か所	29か所	40か所	25か所	27か所	就職先アンケート 〈良好以上評価〉	人間社会学部	未実施	100%	100%	停止	停止	看護学部			90.0%	100%	100%	就職率(%)	人間社会学部	93.6%	93.8%	94.2%	91.8%	91.4%	89.2%	看護学部	98.9%	95.7%	95.6%	100%	100%	96.8%	大学全体	95.8%	94.5%	94.7%	94.9%	94.6%	92.2%	参加者数	21人	29人	41人	36人	43人	27人	企業数	18社	26社	35社	34社	35社	25社	アンケート良好評価	94.7%	96.6%	100%	96.8%	97.7%	100%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																									
スタッフ配置日数	週3日	週4日	週4日	週5日	週5日	週5日																																																																									
就職先訪問数	11か所	30か所	29か所	40か所	25か所	27か所																																																																									
就職先アンケート 〈良好以上評価〉	人間社会学部	未実施	100%	100%	停止	停止																																																																									
	看護学部			90.0%	100%	100%																																																																									
就職率(%)	人間社会学部	93.6%	93.8%	94.2%	91.8%	91.4%	89.2%																																																																								
	看護学部	98.9%	95.7%	95.6%	100%	100%	96.8%																																																																								
	大学全体	95.8%	94.5%	94.7%	94.9%	94.6%	92.2%																																																																								
参加者数	21人	29人	41人	36人	43人	27人																																																																									
企業数	18社	26社	35社	34社	35社	25社																																																																									
アンケート良好評価	94.7%	96.6%	100%	96.8%	97.7%	100%																																																																									

中期計画		計画の実施状況																																													
項目	実施事項																																														
6 学生への支援の	<p>2 【卒業生への支援】</p> <p>①就職後の追跡調査の実施 就職後の追跡調査を定期的に実施することにより、早期にミスマッチ状況を把握し、適切な就職指導を行う。このことにより、卒業生及び就職先との信頼関係を築くことができる。</p> <p>②未就職者への就職活動支援 卒業後1年間、就職活動支援を継続する。</p> <p>③卒業後のキャリアアップの機会の提供 本大学が主催するキャリアアップコースやリカレント研修に関する情報を送り、卒後のキャリアアップの機会を提供する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職場からの評価 ： 良好評価80%以上 ・ 未就職者への対応実績 ： 全希望者への対応実施 ・ 就職率 ： 90%以上 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○卒業後の追跡調査の実施・改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年度 卒業生対象の追跡調査アンケートを策定・発送。平成19年度回収（回答率20%） ・ 平成20年度 改善した調査用紙により、卒業後の追跡調査を、平成18、19年度卒業生に対し実施（回答率22.6%） ・ 厚労省の調査では、大卒の3年後の離職率が約3割であり、適切なアンケート評価を得るためには、平成21年度卒業生が入社後3年前後となる時期にアンケートを実施することが適当であることから、卒業後の追跡調査は、平成24年度から実施することとし、平成21～23年度は実施しないこととした（人間社会学部）。 ・ 就職先アンケート （人間社会学部）平成18～20年度の卒業生の就職先290件に対し郵送及び訪問により調査を実施（回答率38%） アンケート項目を①「採用試験で重視する能力」②「学生時代に養って欲しい能力」に見直したため、アンケート結果に良好評価のパーセントは出ない。 （看護学部）卒業生が出て以来平成23年度まで毎年実施。就職先アンケート内容を集計・整理した報告書を作成し、教職員全員へ配布。今後の就職支援への活用を促した。 <p>○未就職者への就職活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年度 「キャリアサポートセンター」開設、卒後1年目未就職者にアンケートを実施 ・ 平成19年度以降 看護師や社会福祉士等国家試験再受験者の状況を把握し、対象者に模擬試験の連絡、国家試験の受験手続の連絡、勉強の進捗状況を把握し個別相談支援を実施。早期離職者への支援として、看護学部では、平成19年度から早期離職者に対して、相談窓口担当者を決め、就職支援を実施 ・ 平成20～23年度 両学部とも、就職者・未就職者を問わず、教員が卒後の就職相談を受けて支援を実施 <p>○卒業後のキャリアアップの機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18～23年度 大学院心理臨床専攻修士を対象に、事例検討会を4回～5回実施 ・ 平成19～23年度 卒業後のキャリアアップやリカレント研修の機会提供のため、就職した病院や福祉施設等に以下の案内を送付：「公開講座」、「国際シンポジウム」、「身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラス」 ・ 平成23年度 「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」の活動で、卒業生の看護技術支援システムを構築し、卒業生にアナウンスした（卒業生参加者：8名）。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学部</th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">就職先アンケート 〈良好評価〉</td> <td>人間社会学部</td> <td>未実施</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>停止</td> <td>停止</td> <td>停止</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90.0%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">就職率</td> <td>人間社会学部</td> <td>93.6%</td> <td>93.8%</td> <td>94.2%</td> <td>91.8%</td> <td>91.4%</td> <td>89.2%</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>98.9%</td> <td>95.7%</td> <td>95.6%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td>大学全体</td> <td>95.8%</td> <td>94.5%</td> <td>94.7%</td> <td>94.9%</td> <td>94.6%</td> <td>92.2%</td> </tr> </tbody> </table>		学部	H18	H19	H20	H21	H22	H23	就職先アンケート 〈良好評価〉	人間社会学部	未実施	100%	100%	停止	停止	停止	看護学部				90.0%	100%	100%	就職率	人間社会学部	93.6%	93.8%	94.2%	91.8%	91.4%	89.2%	看護学部	98.9%	95.7%	95.6%	100%	100%	96.8%	大学全体	95.8%	94.5%	94.7%	94.9%	94.6%	92.2%
	学部	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																								
就職先アンケート 〈良好評価〉	人間社会学部	未実施	100%	100%	停止	停止	停止																																								
	看護学部				90.0%	100%	100%																																								
就職率	人間社会学部	93.6%	93.8%	94.2%	91.8%	91.4%	89.2%																																								
	看護学部	98.9%	95.7%	95.6%	100%	100%	96.8%																																								
	大学全体	95.8%	94.5%	94.7%	94.9%	94.6%	92.2%																																								

教育に関する特記事項

①看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想

「看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想」が、文部科学省の平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」に選定された。
看護系大学及び医療現場の共通する7つの課題に対して、連携する九州・沖縄の14大学と関連団体がプログラムを共同で開発・推進し、総合的な地域連携によってケアリング溢れる島「ケアリング・アイランド九州沖縄」の実現を目指す取組である。

（連携大学一覧）

琉球大学、大分県立看護科学大学、沖縄県立看護大学、名桜大学、国際医療福祉大学、西南女学院大学、聖マリア学院大学、日本赤十字九州国際看護大学、福岡大学、福岡女学院看護大学、活水女子大学、九州看護福祉大学、協力校：産業医科大学

内容は、大学（看護）教育の向上並びに看護師の早期離職率の低下を目指すものであり、包括的地域貢献の取組である。

具体的取組として、事業開始3年目となる平成23年度は事業費約7,100万円で、基盤的取組としての小部会企画と包括的取組としてケアリング・アイランドウィークを実施した。

○推進・運営に関する会議

開催年月	実施内容	参加対象	参加者数
4月～3月	プロジェクト連携推進会議 6回	連携大学カウンターパート教員	延べ265名
4月～3月	大学コンソーシアム準備委員会 6回	連携大学カウンターパート教員	延べ108名
4月～11月	ケアリング・アイランドウィーク企画委員会 3回	連携大学カウンターパート教員	延べ61名
4月～3月	連携事業運営委員会（外部委員会） 4回	外部委員及び事務局	延べ29名
4月～11月	情報戦略委員会（外部委員会） 2回	外部委員及び事務局	延べ13名
10月～3月	連携事業評価委員会（外部委員会） 2回	外部委員及び事務局	延べ17名

○基盤的取組

- ・FD小部会企画（会議5回 延べ79名参加）（研修会3回 214名参加）
- ・CSD小部会企画（会議7回 延べ74名参加）（研修会1回 140名参加）
- ・メンタリング・ネットワークモデル小部会企画（会議10回 延べ90名参加）（研修会2回 142名参加）
- ・看護技術支援小部会企画（会議8回 延べ80名参加）（本学での技術支援 36名参加）
- ・学生コンソーシアム小部会企画（会議5回 延べ52名参加）（学生企画会議の実施会議10回 延べ242名参加）
- ・理科系科目補強教育小部会企画（会議4回 延べ34名参加）（学生対象研修会1回 124名参加）
- ・講義の相互受講体制小部会企画（会議5回 延べ47名参加）

○包括的取組：ケアリング・アイランドウィーク

ケアリング・アイランドウィークは、本構想に参加している連携大学がそれぞれ地域貢献・国際交流に関わる企画を実施するものであるが、本学は本構想の本部校として、すべての企画運営の補助を行った。本学主催の企画としては、秋興祭における骨密度測定（221名参加）、田川市役所での東日本大震災パネルの展示（401名参加）を実施した。

○雑誌掲載一覧

- ・福岡県病院協会発行 「ほすびたる」4月号から1年間連載
- ・日本看護研究学会九州・沖縄地方会 ニュースレター：「ケアリング・アイランド九州・沖縄構想」
- ・医学書院発行 「看護教育」7月号 学生コンソーシアムに関連する論稿：3編

○国際学会発表

- ・The 22nd STTI（メキシコ）示説2演題
- ・The 2nd WANS（メキシコ）示説4演題
- ・International Hiroshima Conference on Caring and Peace（広島）教育講演1題 交流集会1題 示説14演題

○国内学会発表

- ・日本看護学教育学会第21回学術集会 口演1演題
- ・第31回日本看護科学学会学術集会 交流集会1題 口演2演題 示説4演題

②就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム

「就業力向上を目指す社会貢献支援プログラム」が、文部科学省の平成22年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定された。平成22年度は就業力向上支援会議、就業力向上支援プログラム推進会議及び就業力向上支援室で、本学生の就業力を構成する8つの力のうち、達成率が低い「創造的思考力」、「統合的思考力」、「自己理解力」、「コミュニケーション力」、「ストレス耐性力」の5つの力の向上を図るため以下の事業を実施した。

- ・実学的専門教育科目の設置を検討・単位化
- ・1、2年次生を対象としたプレ・インターンシップ制度の構築
- ・1年次から卒業年度までの系統的キャリア支援講座の開講
- ・社会貢献フォーラムⅠ・Ⅱの開催

平成23年度は、このプログラムを通じて、以下の項目に取り組んだ。

- ・実学的専門教育科目の開講 …社会貢献論、社会貢献論演習、海外語学演習等を開講し、両学部で学ぶ専門的連携科目の充実を図る。
- ・社会貢献・ボランティア活動支援 …社会貢献をテーマとしたボランティア活動やプレ・インターンシップ等の体験的学修を実施
- ・キャリア形成支援個別相談 …学生が将来の進路を自己決定できるよう、個別相談や系統的なキャリア形成支援講座を実施
- ・社会貢献フォーラムの開催 …各学年末に全学的な社会貢献フォーラムを開催し、4年次には公開卒論発表会を開催

具体的には、下記の事業を実施した。

- ・社会貢献論では、社会そのものと社会に生きる人間を理解し、幅広い視野と実践力を培うため「社会貢献の理念、背景、あり方」や「専門領域と社会貢献の関連性」を学ぶ講義を実施した。

・社会貢献論演習ではフィールドワークとして田川市、添田町、川崎町、赤村などの現地踏査を行い、地域の課題を探った。学生は各自が気づいた課題をもとに4つのグループに分かれ、「駅の待合室改善」、「大学周辺の街灯設置」、「大学周辺の地図製作」、「大学のキャラクター製作」という4つのテーマを掲げ、課題解決に向けた取組を検討した。

・「社会貢献を通じて『将来』を考える」と題して社会貢献フォーラムⅠ・Ⅱを開催した。社会貢献フォーラムⅠでは1年次の社会貢献論及び社会貢献論演習での体験的学びの成果を発表した。また、社会貢献フォーラムⅡでは、海外語学実習での学びの他、プレ・インターンシップや自主的な社会貢献活動での学びの成果発表を行った。

・海外語学演習では、イギリスでの海外語学実習に向けた事前指導・事前学習を実施し、イギリスと日本の文化の違いについて理解を深めた。

・イギリスでの語学研修では、現地の大学生がアシスタントとして参加し、小グループで交流を深めながら実践的な研修を実施した。また、学生は各自、イギリスにおける看護、社会福祉、コミュニティ活動に関する調査テーマを設定し、各領域の専門職へのインタビューを行った。さらに、現地の公民館や小学校でイギリスの小学生に日本語や日本文化を教える教育体験も行った。

・両学部で学ぶ専門的連携科目では、看護や福祉などの実践現場の第一線で活躍している産業人を講師として招へいし、専門領域の実践現場におけるトピックについて理解を深める内容を企画し、講座を実施した。

③不登校・ひきこもりへの援助力養成教育

「不登校・ひきこもりへの援助力養成教育」が、文部科学省の平成20年度「質の高い大学教育推進プログラム（教育G P）」に選定された（H20～22）。

この事業は、平成19年9月に設置した「不登校・ひきこもりサポートセンター」に新たに3つの部門（集団支援部門、家族支援部門、社会化支援部門）を有する「大学内フリースクール」を設置し、これを最大限に活用した教育プログラムの実行により、不登校・ひきこもりへの「援助力」を有した学生の養成を目指すものである。

④特別記念講演

社会福祉学科教員を中心に企画実施。前国際ソーシャルワーカー連盟会長（デイビッド・ジョーンズ氏）による来日特別記念講演「地球規模で変わる環境におけるソーシャルワーク」を実施。本学学生他、関係大学教員、地域の関係機関にも参加を呼びかけた。参加者120名。

⑤平成23年度社会福祉士養成校協会九州ブロック研究大会

本学社会福祉学科が担当校として九州ブロック研究大会を開催した。大会テーマは「新カリキュラムの中で社会福祉士養成教育の課題を考えるーソーシャルワーカーの共通基盤を求めてー」。大学教員、福祉施設関係者等120名参加。

項目別の状況

<p>中期目標 2. 研究</p>	<p>「大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。」 福岡県立大学は、人間社会学部と看護学部が連携し、保健・医療・福祉に関する大学の教育と社会の発展に有用な学際的な研究を重点的に推進する。研究費については、大学の財源を効果的に配分するとともに、外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。</p>
-----------------------	---

中期計画		計画の実施状況																																		
項目	実施事項																																			
<p>1 特色ある研究の推進 附属研究所を組織する。附属研究所（生涯福祉研究センター・ヘルスプロモーション実践研究センター）を核にし、福祉社会を創造する保健・福祉・教育・心理・社会等の分野に関する幅広い視野に立った学際的な研究を推進する。</p>	<p>1 【附属研究所に従来の生涯福祉研究センターと新たにヘルスプロモーション実践研究センターを組織し、両学部が連携した学際的な研究プロジェクトを実施】 ①地域のヘルスプロモーション研究を実施する。 ②福岡県行政（保健福祉部等）、福祉機関、学校教育機関等と連携し、地域の福祉研究（地域の老人医療・介護費に関わる問題等）を実施する。 ③地域住民のキャリア教育・キャリア形成に関わる研究を実施する。</p> <p>○達成目標 ・プロジェクト数 ：毎年3件以上</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○研究プロジェクトの設置 ・平成18年4月に附属研究所「ヘルスプロモーション実践研究センター」を開設、既設の「生涯福祉研究センター」との調整部会を毎月開催 ・附属研究所を基盤とした両学部連携プロジェクトは年々着実に進んでいる。</p> <p>○研究プロジェクトの内容・研究成果の公開 ・平成18年度 生涯福祉研究報告叢書、研究紀要、個別研究報告書をホームページなどに公表 ・平成19年度 附属研究所の事業や活動内容を「附属研究所通信」で紹介、「附属研究所・事業報告書」を毎年刊行 ・平成20年度 共同研究プロジェクト研究成果について発表会開催「平成19-20年度研究奨励交付金研究成果報告書」にまとめた。また、「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生プロジェクト報告書」を発刊し、その研究成果は「元気いっぱい！たがわナビ」を立上げ、ITによる情報発信をしている。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生涯福祉研究センター研究プロジェクト</td> <td>15件</td> <td>12件</td> <td>16件</td> <td>15件</td> <td>17件</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト</td> <td>(開設)</td> <td>39件</td> <td>38件</td> <td>37件</td> <td>30件</td> <td>43件</td> </tr> <tr> <td>共同研究プロジェクト</td> <td>4件</td> <td>13件</td> <td>9件</td> <td>6件</td> <td>7件</td> <td>5件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト」の欄には、同センターで実施する共同研究プロジェクト(H23年度5件)及び個別研究プロジェクト(H23年度19件)を含む。</p>								H18	H19	H20	H21	H22	H23	生涯福祉研究センター研究プロジェクト	15件	12件	16件	15件	17件	14件	ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト	(開設)	39件	38件	37件	30件	43件	共同研究プロジェクト	4件	13件	9件	6件	7件	5件
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																														
生涯福祉研究センター研究プロジェクト	15件	12件	16件	15件	17件	14件																														
ヘルスプロモーション実践研究センター研究プロジェクト	(開設)	39件	38件	37件	30件	43件																														
共同研究プロジェクト	4件	13件	9件	6件	7件	5件																														

中期計画		計画の実施状況																																																	
項目	実施事項																																																		
1 特色ある研究の	<p>2 【外部研究資金の獲得】 受託研究などによる外部資金を積極的に獲得する。</p> <p>○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額 ：年間30件、年間5千万円</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○外部研究資金の獲得について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費の応募期間前・期間中に全教員を対象に説明会を実施し、申請書作成にあたってはベテラン教員が指導した。 ・各種の研究公募情報を配信し、応募を勧奨した。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>応募件数</td> <td>79件</td> <td>65件</td> <td>82件</td> <td>82件</td> <td>91件</td> <td>91件</td> </tr> <tr> <td>獲得件数</td> <td>32件</td> <td>41件</td> <td>39件</td> <td>35件</td> <td>37件</td> <td>48件</td> </tr> <tr> <td>獲得金額(千円)</td> <td>43,815千円</td> <td>57,423千円</td> <td>91,150千円</td> <td>160,650千円</td> <td>153,712千円</td> <td>152,257千円</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部研究資金</td> <td>43,815千円</td> <td>57,423千円</td> <td>48,325千円</td> <td>43,018千円</td> <td>44,477千円</td> <td>63,562千円</td> </tr> <tr> <td>その他外部資金</td> <td>0千円</td> <td>0千円</td> <td>42,825千円 (3件)</td> <td>117,632千円 (4件)</td> <td>109,235千円 (4件)</td> <td>88,695千円 (2件)</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	応募件数	79件	65件	82件	82件	91件	91件	獲得件数	32件	41件	39件	35件	37件	48件	獲得金額(千円)	43,815千円	57,423千円	91,150千円	160,650千円	153,712千円	152,257千円		H18	H19	H20	H21	H22	H23	外部研究資金	43,815千円	57,423千円	48,325千円	43,018千円	44,477千円	63,562千円	その他外部資金	0千円	0千円	42,825千円 (3件)	117,632千円 (4件)	109,235千円 (4件)	88,695千円 (2件)
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
応募件数	79件	65件	82件	82件	91件	91件																																													
獲得件数	32件	41件	39件	35件	37件	48件																																													
獲得金額(千円)	43,815千円	57,423千円	91,150千円	160,650千円	153,712千円	152,257千円																																													
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																													
外部研究資金	43,815千円	57,423千円	48,325千円	43,018千円	44,477千円	63,562千円																																													
その他外部資金	0千円	0千円	42,825千円 (3件)	117,632千円 (4件)	109,235千円 (4件)	88,695千円 (2件)																																													

中期計画		計画の実施状況																																			
項目	実施事項																																				
3	<p>【産学官連携の推進】 附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。</p> <p>○達成目標 ・産学連携契約件数 ：年間2件</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携の窓口・活動拠点については、平成18年度に「附属研究所調整部会」のもとに産学官連携ワーキンググループを設置し、そこが主宰する形で、毎年各種の研究シーズ発表会への参加、知的財産セミナーの開催、福岡県福祉労働部新生活産業室との連携、九州経済産業局との連携、メールマガジンの発行などを行ってきた。 ・平成18年度以降 「田川地域連携推進協議会」を立ち上げ、地元事業所や行政との連携を深めている。法人化以前より行われてきた、e-zukaトライバレー産学官技術交流会でのシーズ発表に加え、福岡県新生活創出事業・新生活産業見本市でのシーズ発表、研究紹介も毎年度実施 ・平成20年度以降 特許取得、商標登録等に関するセミナー（知的財産セミナー）を毎年1回開催し、教職員の意識向上に努めた。 ・平成20年度以降 福岡県福祉労働部新生活産業室、九州経済産業局と共同して新生活産業見本市やシーズ発表会に参加 ・平成22年度以降 西日本国際福祉機器展に福岡県立大学の展示コーナーを設置し、研究シーズや本学教員の研究成果を発表 ・平成23年度 田川市と本学との間で平成22年度に締結された包括連携協定に基づき、3つの研究プロジェクトを実施 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産学官連携契約件数</td> <td>5件</td> <td>5件</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>4件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>産学官技術交流会参加者 (ポスターセッション参加者を含む)</td> <td>23人</td> <td>15人</td> <td>13人</td> <td>9人</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>知的財産セミナー参加者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>34人</td> <td>32人</td> <td>35人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>研究シーズの紹介参加者</td> <td>* 1 20人</td> <td>* 1 11人</td> <td>* 2 15人</td> <td>* 2 14人</td> <td>* 2 5人</td> <td>* 2 8人</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 1 筑豊地区産学官技術交流会 * 2 筑豊地区産学官技術交流会、福岡県新生活産業創出事業、福岡県新生活産業見本市</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	産学官連携契約件数	5件	5件	4件	3件	4件	5件	産学官技術交流会参加者 (ポスターセッション参加者を含む)	23人	15人	13人	9人	-	-	知的財産セミナー参加者数	-	-	34人	32人	35人	21人	研究シーズの紹介参加者	* 1 20人	* 1 11人	* 2 15人	* 2 14人	* 2 5人	* 2 8人
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
産学官連携契約件数	5件	5件	4件	3件	4件	5件																															
産学官技術交流会参加者 (ポスターセッション参加者を含む)	23人	15人	13人	9人	-	-																															
知的財産セミナー参加者数	-	-	34人	32人	35人	21人																															
研究シーズの紹介参加者	* 1 20人	* 1 11人	* 2 15人	* 2 14人	* 2 5人	* 2 8人																															

中期計画		計画の実施状況																																	
項目	実施事項																																		
1 特色ある研究の	<p>4 【研究費の配分】 研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するために、個々の教員の基礎的研究費を確保しつつ、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度を拡充する。</p> <p>○達成目標 ・研究費に占める研究奨励交付金の割合 ：30% ・論文数(査読付、学術書掲載分) ：90件以上（人間社会学部年間40件以上、看護学部年間50件以上） ・学会発表（招待講演、シンポジスト招聘分） ：10件以上（人間社会学部年間5件以上、看護学部年間5件以上） ・特許・実用新案件数（取得済）</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○研究奨励交付金の配分については、平成18年度に研究奨励交付金要領を設け、3つのテーマによる両学部共同のプロジェクト研究と各学部の個別研究に区分けを行い、平成19年度から適用してきた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究費に占める研究奨励交付金の割合</td> <td>33%</td> <td>33%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> <td>30%</td> </tr> <tr> <td>論文数(査読付、学術書掲載分)</td> <td>74件</td> <td>108件</td> <td>94件</td> <td>86件</td> <td>68件</td> <td>86件</td> </tr> <tr> <td>学会発表(招待講演、シンポジスト招聘分)</td> <td>9件</td> <td>25件</td> <td>36件</td> <td>58件</td> <td>25件</td> <td>14件</td> </tr> </tbody> </table>							H18	H19	H20	H21	H22	H23	研究費に占める研究奨励交付金の割合	33%	33%	30%	30%	30%	30%	論文数(査読付、学術書掲載分)	74件	108件	94件	86件	68件	86件	学会発表(招待講演、シンポジスト招聘分)	9件	25件	36件	58件	25件	14件
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																													
研究費に占める研究奨励交付金の割合	33%	33%	30%	30%	30%	30%																													
論文数(査読付、学術書掲載分)	74件	108件	94件	86件	68件	86件																													
学会発表(招待講演、シンポジスト招聘分)	9件	25件	36件	58件	25件	14件																													

項目別の状況

<p>中期目標 3. 社会貢献</p>	<p>「大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。」 大学が保有する人材や知識等を活用して、保健師、助産師、看護師、社会福祉士、精神保健福祉士等を対象としたリカレント教育を実施するとともに、人間社会学部と看護学部の連携のもとで、地域住民の健康・福祉等に関する支援を実施し、積極的な社会貢献を果たす。</p>
-------------------------	--

中期計画		計画の実施状況																																																															
項目	実施事項																																																																
<p>1 地域貢献 附属研究所（生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター）を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。</p>	<p>1 【地域住民の健康の向上、福祉・教育等の相談・支援等の実施】 ①新生児、子ども、成人、高齢者を対象とした健康教育を実施する。 ②保健・福祉・教育等に関わる個別の相談・支援を検討し、実施する。 不登校や発達障害、自然環境保全、健康づくり、青少年の非行防止など地域の住民や団体の相談に応じ、地域住民と連携して改善に取り組む。</p> <p>○達成目標 ・健康教育・相談等事業数 ：年間10件以上 ・参加者・相談者数 ：年間個別相談参加者数50人以上 上 ：年間集団教育参加者数500人以上 ・参加者・相談者アンケート ：75%以上の良好評価</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 「ヘルスプロモーション実践研究センター」 ○健康教室の実施・修正 ・平成18年度以降 地域住民を対象としたヒーリングコース、妊婦を対象としたマザークラス、また筑豊市民大学でヘルシー・エイジングを中心に内容を発展させ、毎年実施 ・平成19年度以降 新たにヒーリングルームを開所し、セラピールーム「癒しの空間」等の各種ヒーリング事業及びヒーリング紹介公開講座を実施。新たな取組として、田川市健康展への参加や健康保育講座、不妊女性のおしゃべり会などを実施 ・平成20年度 フットケア教室を開催し、さらに帝王切開分娩を経験した女性の支援や慢性疾患セルフマネジメントプログラム、長寿を楽しむ生活づくりなど、市民対象の講座を行った。また、日本とタイのセラピスト等の相互訪問事業を実施 ・平成22年度 東京及び群馬でヒーリング・ティーチングコースを開催（東京は平成23年度も開催） ・平成23年度 平成21年度から取り組んでいる健康大使について、運用要綱を作成して教授会報告を実施</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>健康教室</td> <td>5件</td> <td>17件</td> <td>18件</td> <td>19件</td> <td>23件</td> <td>28件</td> </tr> <tr> <td>健康教室参加者数</td> <td>941人</td> <td>4,394人</td> <td>2,561人</td> <td>2,297人</td> <td>3,313人</td> <td>3,669人</td> </tr> <tr> <td>健康教室参加者アンケート</td> <td>未実施</td> <td>92%</td> <td>91%</td> <td>81～100%</td> <td>81～100%</td> <td>95%</td> </tr> </tbody> </table> <p>「生涯福祉研究センター」 ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・修正 ・地域住民を対象とした相談事業等として、平成18年度は「お父さんお母さんの学習室」の運営と、自閉症児・発達障害児の発育相談及び発達指導を実施。また、福祉用具研究会を開催 ・平成19年度 「おもちゃとしょかんたがわ」と「心理教育相談室」を開設。新たな取組として、若年者職場定着のための施策検討事業、子育てボランティア養成講座などを実施 ・平成20年度 これまでの主な相談事業を具体的プログラムで体系的に実施するとともに、「心理教育相談室公開講演会」や「日・韓子育て支援シンポジウム」を開催 ・平成21年度以降 「足と靴の相談室」を運営し、平成22年度には大牟田のNP0法人と連携して県庁地下売店コーナーにも開設し、マスコミに取り上げられ利用者が大きく増加した。 ・平成23年度 世界記憶遺産山本作兵衛遺品の整理と作品展示を行い、田川市設置の保存・活用等検討委員会に参画</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>おもちゃとしょかんたがわ(参加者数)</td> <td>-</td> <td>28人</td> <td>220人</td> <td>230人</td> <td>174人</td> <td>266人</td> </tr> <tr> <td>お父さんお母さんの学習室(参加者数)</td> <td>28人</td> <td>20人</td> <td>40人</td> <td>45人</td> <td>50人</td> <td>40人</td> </tr> <tr> <td>心理教育相談室(相談者数)</td> <td>-</td> <td>120人</td> <td>730人</td> <td>806人</td> <td>940人</td> <td>925人</td> </tr> <tr> <td>足と靴の相談室(相談者数)</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>24人</td> <td>29人</td> <td>103人</td> <td>61人</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	健康教室	5件	17件	18件	19件	23件	28件	健康教室参加者数	941人	4,394人	2,561人	2,297人	3,313人	3,669人	健康教室参加者アンケート	未実施	92%	91%	81～100%	81～100%	95%		H18	H19	H20	H21	H22	H23	おもちゃとしょかんたがわ(参加者数)	-	28人	220人	230人	174人	266人	お父さんお母さんの学習室(参加者数)	28人	20人	40人	45人	50人	40人	心理教育相談室(相談者数)	-	120人	730人	806人	940人	925人	足と靴の相談室(相談者数)	-	-	24人	29人	103人	61人
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																											
健康教室	5件	17件	18件	19件	23件	28件																																																											
健康教室参加者数	941人	4,394人	2,561人	2,297人	3,313人	3,669人																																																											
健康教室参加者アンケート	未実施	92%	91%	81～100%	81～100%	95%																																																											
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																											
おもちゃとしょかんたがわ(参加者数)	-	28人	220人	230人	174人	266人																																																											
お父さんお母さんの学習室(参加者数)	28人	20人	40人	45人	50人	40人																																																											
心理教育相談室(相談者数)	-	120人	730人	806人	940人	925人																																																											
足と靴の相談室(相談者数)	-	-	24人	29人	103人	61人																																																											

中期計画		計画の実施状況																																																		
項目	実施事項																																																			
1 地域貢献の続き	1 【地域住民の健康の向上、福祉・教育等の相談・支援等の実施】の	<p>「不登校・ひきこもりサポートセンター」</p> <p>○県大子どもサポーター派遣事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19年9月に開設した本センターは平成23年度で5年目となり、全国的な評価も高まった。特に教育G P採択を機に設置されたキャンパス・スクール（大学内フリースクール）の通級人数は、平成20年度11名（延べ78名）から平成23年には22名（延べ948名）と大きく拡大した。 <p>○教員対象研修事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員対象研修事業を着実に毎年実施 <p>○シンポジウムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度以降 毎年度開催 <p>○相談件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談延べ件数は、平成20年度から平成23年度まで毎年度2,000件を超えた。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サポーター登録数</td> <td>149人</td> <td>181人</td> <td>185人</td> <td>202人</td> </tr> <tr> <td>サポーター派遣人員延数</td> <td>980人</td> <td>1,394人</td> <td>1,181人</td> <td>1,658人</td> </tr> <tr> <td>教員対象研修回数</td> <td>35回</td> <td>41回</td> <td>54回</td> <td>45回</td> </tr> <tr> <td>教員研修参加者数</td> <td>1,957人</td> <td>1,776人</td> <td>3,092人</td> <td>3,013人</td> </tr> <tr> <td>シンポジウム開催回数</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>相談延べ件数</td> <td>2,224件</td> <td>2,231件</td> <td>2,318件</td> <td>2,265件</td> </tr> </tbody> </table> <p>「社会貢献・ボランティア支援センター」</p> <p>○本センターは、学生のための参画型社会貢献活動を具現化する拠点として設置され、4つの主要事業を実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生ボランティア活動支援事業 2 地域での学生による社会貢献活動 3 学生による社会貢献に関する教育支援事業 4 学生による社会貢献に関する研究・調査事業 <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度 「社会貢献・ボランティア支援センター」が「福岡県共助社会づくり奨励賞」を受賞 ・平成23年度 東日本大震災学生ボランティア「チームひまわり」の活動支援を行い、他大学と連携して学生ボランティア派遣を支援 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部団体登録件数</td> <td>-</td> <td>63件</td> <td>97件</td> </tr> <tr> <td>来所人員</td> <td>59人</td> <td>917人</td> <td>1,240人</td> </tr> </tbody> </table>					H20	H21	H22	H23	サポーター登録数	149人	181人	185人	202人	サポーター派遣人員延数	980人	1,394人	1,181人	1,658人	教員対象研修回数	35回	41回	54回	45回	教員研修参加者数	1,957人	1,776人	3,092人	3,013人	シンポジウム開催回数	1回	1回	1回	1回	相談延べ件数	2,224件	2,231件	2,318件	2,265件		H21	H22	H23	外部団体登録件数	-	63件	97件	来所人員	59人	917人	1,240人
	H20	H21	H22	H23																																																
サポーター登録数	149人	181人	185人	202人																																																
サポーター派遣人員延数	980人	1,394人	1,181人	1,658人																																																
教員対象研修回数	35回	41回	54回	45回																																																
教員研修参加者数	1,957人	1,776人	3,092人	3,013人																																																
シンポジウム開催回数	1回	1回	1回	1回																																																
相談延べ件数	2,224件	2,231件	2,318件	2,265件																																																
	H21	H22	H23																																																	
外部団体登録件数	-	63件	97件																																																	
来所人員	59人	917人	1,240人																																																	

中期計画		計画の実施状況																																																																													
項目	実施事項																																																																														
1 地域貢献の続き	<p>2 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】</p> <p>①保健師や助産師、看護師へのキャリアアップ及びリカレント教育 ・キャリアアップ教育 臨床実習指導者講習会、教員養成講習会、実践健康教育士講習会など認定取得につながる講習会 ・リカレント教育 糖尿病や難病、在宅酸素療法、オストメイト支援など各種専門分野の講習会、患者会支援方法など専門分野を深める講習会</p> <p>②社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育 ・社会福祉援助技術のスキルアップ研修や社会福祉制度・施策に関するシンポジウムの開催等のキャリアアップ及びリカレント教育を実施する。</p> <p>③公開講座の充実 ・大学の教育・研究の成果を地域に還元する。</p> <p>○達成目標 ・キャリアアップ・リカレント講習会開催数、受講者数 : 年間5コース、前年度以上 ・シンポジウム開催数、参加者数 : 年間1回、前年度以上 ・公開講座数、受講者数 : 年間3コース、前年度以上 ・参加者アンケート : 75%以上の良好評価</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○リカレント教育について ・平成18年度 実施案だけでなく看護師対象に糖尿病患者教育の研修会、保健師対象に糖尿病予防教育、助産師対象にマザークラスなど実施できた。また、不妊フォーラムやいじめ問題検討シンポジウムを実施 ・平成19年度 キャリアアップ・リカレント講習会を積極的に開催。シンポジウムを実施。さらに認定看護師コース開設のための検討を行った。 ・平成20年度 開催コース数は絞り、受講者数を増やした。シンポジウムを実施 特記事項として、「看護実践教育センター」を開設し、糖尿病看護認定看護師教育課程開設(定員:15名)の申請をし、看護協会から認可を受け、平成21年度より開始できることになった。 ・平成22、23年度 保健医療福祉の他職種と共同して在宅医療推進のためのシンポジウムを開催</p> <p>○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育 社会福祉援助技術のスキルアップ研修や社会福祉制度・施策に関するシンポジウムの開催等のキャリアアップ及びリカレント教育について ・平成18年度 社会福祉士シンポジウムの次年度の実施に向けて計画案を作成 ・平成19年度 日韓社会福祉セミナーを実施し、160名が参加 ・平成20年度 「福岡県立大学社会福祉学会・第1回大会」(テーマ:「新しい社会福祉の息吹を」)を開催し、148名の参加を得た。 ・平成22年度 第3回大会、テーマ「時代の転換期と社会福祉」を開催し、150名の参加を得た。 ・平成23年度 「さわやかな自己表現塾」を2回開催し「福岡県立大学心理臨床研究」で成果報告を行った。</p> <p>○公開講座について ・平成18、19年度 e-ラーニングコース、特設集中コース、カルチャーコースの3コースを実施 ・平成20年度 e-ラーニングコースとして4ゼミ(各4回)、ヘルスプロモーション実践研究センター体験コース、不登校問題解消対策のために(4回)の3コースを実施 ・平成21年度 「公開講座小部会」を発足させ、平成22年度、23年度と3コースの企画運営を実施して毎年度報告書を作成。また、同3年間博多において実施</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="7">キャリアアップ・リカレント講習会</td> </tr> <tr> <td>開催数</td> <td>5回</td> <td>59回</td> <td>39回</td> <td>16回</td> <td>15回</td> <td>16回</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>266人</td> <td>1,263人</td> <td>1,432人</td> <td>1,955人</td> <td>1,716人</td> <td>1,721人</td> </tr> <tr> <td colspan="7">シンポジウム</td> </tr> <tr> <td>開催数</td> <td>1回</td> <td>2回</td> <td>4回</td> <td>1回</td> <td>1回</td> <td>2回</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>20人</td> <td>287人</td> <td>401人</td> <td>68人</td> <td>86人</td> <td>106人</td> </tr> <tr> <td colspan="7">公開講座</td> </tr> <tr> <td>公開講座数</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>受講者数</td> <td>167人</td> <td>514人</td> <td>311人</td> <td>234人</td> <td>305人</td> <td>189人</td> </tr> <tr> <td>参加者アンケート良好評価</td> <td>90%</td> <td>90%</td> <td>77%</td> <td>91%</td> <td>77%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	キャリアアップ・リカレント講習会							開催数	5回	59回	39回	16回	15回	16回	受講者数	266人	1,263人	1,432人	1,955人	1,716人	1,721人	シンポジウム							開催数	1回	2回	4回	1回	1回	2回	受講者数	20人	287人	401人	68人	86人	106人	公開講座							公開講座数	3回	3回	3回	3回	3回	3回	受講者数	167人	514人	311人	234人	305人	189人	参加者アンケート良好評価	90%	90%	77%	91%	77%	80%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																									
キャリアアップ・リカレント講習会																																																																															
開催数	5回	59回	39回	16回	15回	16回																																																																									
受講者数	266人	1,263人	1,432人	1,955人	1,716人	1,721人																																																																									
シンポジウム																																																																															
開催数	1回	2回	4回	1回	1回	2回																																																																									
受講者数	20人	287人	401人	68人	86人	106人																																																																									
公開講座																																																																															
公開講座数	3回	3回	3回	3回	3回	3回																																																																									
受講者数	167人	514人	311人	234人	305人	189人																																																																									
参加者アンケート良好評価	90%	90%	77%	91%	77%	80%																																																																									

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
<p>2 国際交流 保健・福祉にかかわる人材育成のために中国や韓国の大学等と相互の教育・研究を推進する。</p>	<p>1 【保健福祉に関する教育情報の交換及び研究成果の発信】 ①福祉系の総合大学として、中国・韓国の大学と保健福祉の実情について情報交換、及び発信を行う。 保健福祉の分野は未開拓であり、福祉系の総合大学である本学の特徴を活かし、情報交換することは、本学の教育・研究においても有益である。 例えば、看護の分野では予防医学的見地から漢方、気功、ヨガ、指圧など、代替療法として着目しているところである。 また、アジアの近隣諸国では福祉従事者養成の取り組みに対し、本学が十分貢献できる状況にある。 ②中国・韓国の大学との教育交流協定締結校の数を増やす。</p> <p>○達成目標 ・シンポジウム等開催数 ：平成20年度より年1回以上 ・教員交流数 ：年6名以上 ・学術教育交流協定締結大学数 ：平成23年度までに4大学以上（中国2大学、韓国2大学）</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○中国・韓国等の大学との保健福祉の実情について情報交換、発信 平成18年度 ・大邱韓医大学校における総長講演、学科長等による交流会議 ・本学附属研究所開設シンポジウムに南京師範大学助教授を招へい ・大邱韓医大学校における国際シンポジウムに本学教員がシンポジストとして参加 平成19年度 ・韓国・カンナム大学、スンシル大学を訪問、学術教育交流の可能性を探った。 ・本学社会福祉学科主催の日韓社会福祉セミナーにスンシル大学教員1名を記念講演者として招へい ・共同研究のため、本学教員6名が大邱韓医大学校を訪問 平成20年度 ・日韓子育て支援シンポジウムの打ち合わせと参加で本学教員が大邱韓医大学校を2回訪問 ・本学教員が「漢方に根ざした看護の調査」を大邱韓医大学校附属病院にて実施 ・北京中医薬大学教授1名が来学し、同大学と本学との教員交流、講義実施について協議 平成21年度 ・北京中医薬大学から教員が来学し、講演「新型インフルエンザ」、病院訪問など実施 ・大邱韓医大学校の「子育て意識と子育て支援に関する日韓共同研究」のシンポジウムで、本学教員が学術発表 ・大邱韓医大学校を本学英語教員が訪問し、インターネットによる英語教育について意見交換 平成22年度 ・コンケン大学精神看護学の教員4名が来学し、研究交流を実施 ・コンケン大学でホリスティックタッチ講習会のため1名を2回派遣 ・大邱韓医大学校から教員1名が後期期間中訪問研究員として本学に滞在 ・北京中医薬大学に看護学部教員1名を2回、計6カ月派遣 ・北京中医薬大学看護学院の教員2名が1カ月滞在し、集中講義・演習を実施 平成23年度 ・北京中医薬大学の教員2名による中医看護学夏季特別講義を実施 ・本学看護学部の教員1名が北京中医薬大学に滞在して英語クラスを担当 ・北京中医薬大学で健康意識の調査（教員5名）と妊婦の食に関する研究（教員4名）を実施 ・本学の教員2名が北京中医薬大学においてケアリング・アイランドに関する講演を実施 ・三育大学校で地域福祉計画の調査（教員2名）を実施 ・コンケン大学でプロジェクト研究としてホリスティックタッチの実施とそのプレゼンテーション実施（教員1名） ・本学の20周年記念式典に北京中医薬大学（2名）、三育大学校（2名）、大邱韓医大学校（3名）から招へいし、意見交換</p> <p>○中国・韓国の大学との交流協定締結について ・平成18年度 大邱韓医大学校と学術教育交流協定を締結 ・平成21年度 北京中医薬大学及び韓国三育大学校と交流協定を締結 ・平成22年度 タイ・コンケン大学と覚書を締結</p>

中期計画		計画の実施状況						
項目	実施事項							
2 国際交流の続き	1 【保健福祉に関する教育情報の交換及び研究成果の発信】の続き	○目標実績						
			H18	H19	H20	H21	H22	H23
		シンポジウム等開催数	0回	1回	1回	3回	0回	0回
		教員交流	6人	6人	26人	27人	16人	30人
		学術教育交流協定締結大学数 (既締結大学:大学数)	2校	2校	2校	4校	5校	5校
	2 【交換留学制度の拡大・短期研修制度の導入】 ①交換留学生の数を増やす。 現在、中国の南京師範大学と相互に年間1名の留学生を受け入れている。今後、交流協定の拡大、及び新規協定によって、複数の留学生が学べるようにする。本学で学んだ学生が中国や韓国で活躍することは、国際交流の人的資源として活用したり、情報提供に有益である。 ②短期研修制度を導入する。 長期留学にはももるの理由で参加できない学生のため、夏季休暇等を利用した短期研修制度を新設し、学生の国際交流を一層増やす。異文化理解、語学力の向上などにより相互理解が深まる。 ③学部生、大学院生の留学受け入れを検討する。 ○達成目標 ・交換留学生数 ：平成20年度より4名以上	【中期目標期間の実施状況】 ○交換留学生の数を増やす ・平成18、19年度 田川市内に受入ホストファミリー1件を継続して確保 ・平成20年度 大邱韓医大学校派遣留学生への奨学金給付を実施（施行は19年度） ・平成21年度 受入留学生（6名）それぞれにチューター（本学学生）を配置 ・平成22年度 受入留学生（6名）に対しホストファミリー4件を確保 ・平成23年度 チューター制度の充実及び留学生支援事業を7回実施して地域理解に努めた。 ○短期語学研修制度を導入する ・平成18年度 イギリス・ヨーク大学、オーストラリア・モナッシュ大学（計31名） ・平成19年度 オーストラリア・モナッシュ大学（3名） ・平成20年度 イギリス・ヨーク大学（21名） ・平成21年度 イギリス・パース・スパ大学、韓国・大邱韓医大学校（計51名） ・平成22年度 オーストラリア・モナッシュ大学（4名） ・平成23年度 ハワイ大学、英国短期語学実習（計26名） ○学部生、大学院生の受け入れを検討する ・平成18年度 他大学の状況調査、私費留学生増加の問題点等を検討 ・平成19年度 受入留学生の制度具体化のため、「福岡県立大学研究生規則」他を改正して整備 ・平成20～22年度 留学生の受入条件を具体的に検討 ・平成23年度 受入条件の検討を継続した他、副理事長他が南京師範大学を訪問し、留学生増員に向け意見交換を実施 ○目標実績						
			H18	H19	H20	H21	H22	H23
		交換留学生数	2人	2人	8人	7人	8人	12人

社会貢献に関する特記事項

①「地方の元気再生事業」プロジェクトの推進

「世界遺産をめざす旧産炭地・田川再生事業～産・官・民・学が協働する保養滞在型エコツーリズムの実現～」プロジェクトが、内閣府の平成20年度、21年度「地方の元気再生事業」に採択（平成20年度2,852万円、21年度1,890万円）され継続して田川地域の活性化に積極的に取り組んでいる。

全学的な体制で実施した、2年間の事業概要は以下のとおりである。

- ・本学が主体となり「田川再生事業推進本部(事務局)」を設置し、この事務局を中心に事業を推進した。
- ・産・官・民・学からなる、「元気再生推進協議会」を設置し、初年度4つ、2年目3つの推進チームの審議機関として12回の会議や国際シンポジウムを行った。
- ・4つの推進チームで実施計画に基づき事業を推進した。

「地域アンケート・資源調査チーム」

田川市民5千人、北九州市・福岡市民2千人調査、地域資源モニターツアーや文化・自然・産業マップ（2種類）作成や山本作兵衛記録画調査などを行った。

「学生・留学生ボランティアチーム」

学生ボランティアの実態調査、12団体の内容把握、先進校調査を行い、平成21年度には「社会貢献・ボランティア支援センター」が設置された。

「炭坑節まつり・農産物展示・即売チーム」

情報発信のため第1チームと協力してポータルサイト(田川元気ナビ)を立ち上げ、元気再生事業や特産品の発信を行い、平成21年度は、保養滞在型商品モデルを開発し、社会実験を行った。

「世界遺産国際シンポジウムチーム」

元気再生推進協議会とは別に、実行委員会を立ち上げて実施した。その結果、1,267人（目標1,000人）が集い、3チームのポスターセッションを含め実施し、平成21年度は3チーム全員で推進する体制とし、世界記憶遺産への申請を行った。

- ・マスコミ、自治体関係者、有識者などから事業が注目され、田川の再生と産・官・民・学協働、保養滞在型エコツーリズムの実現に向け前進した。
- ・内閣府・経済産業省への報告書2冊を2,000部作成し、関係者に送付した。
- ・平成23年5月には日本初の世界記憶遺産に山本作兵衛コレクション（記録画・日記）が採択・登録された。

②ユネスコ世界記憶遺産認定

- ・田川市と福岡県立大学が共同申請していた山本作兵衛コレクション697点が、日本初となるユネスコ世界記憶遺産（MOW）に登録された（平成23年5月25日ユネスコ英文HP）。

・本学は平成14年から10年間、山本作兵衛コレクションの発掘・保管・解読等の研究を主導し、年1冊の研究報告書を科研費・学内奨励研究で発刊（平成23年度で全11巻）、本快挙に結びつけた。

・新設の附属研究所棟（準耐火構造）内に九州歴史資料館、九州国立博物館との協議を経て、温度、湿度、光度、盗難、火災に耐える部屋を設け、完全空調等の設備を施し、保管体制を万全にした。

- ・展示は、附属研究所棟内に別の展示室を設け、期間を限って市民に公開した。

・田川市が8月より設置した「山本作兵衛氏の炭坑の記録画並びに記録文書の保存・活用等検討委員会」に学長はじめ6名の教員が参画し、申請合意書をもとに山本作兵衛コレクションの保存・活用を検討した。

③第28回日本看護科学学会学術集会開催

平成20年度に第28回日本看護科学学会学術集会を開催し、全国から約2,700名の参加を得ている。

本学看護学部長が学術集会長として、平成20年12月13、14日に福岡国際会議場及び福岡サンパレスホテル&ホールにおいて、「ケアリング・サイクルと看護科学」をメインテーマに開催した。

米国よりJ. ワトソン博士を基調講演、姉妹提携候補校である北京中医薬大学よりLisha Han学部長を特別講演に迎え、ケアリングリレー講演として、本学教員の3名も講演した。我が国の看護界において最も歴史のあるアカデミックな学会であるが、今回が九州初開催であったこともあり、企画委員として福岡県下の全看護系大学の教員が協力した。

最後の企画委員会において、この企画委員会を基盤にして、「ケアリング・アイランド・九州」という構想でコンソーシアムを創ることが決定し、3月19日には第一回の会議を開催した。

④田川市・福岡県立大学包括連携協定

- ・共同研究事業

共同研究事業において、6件の申請があり、そのうち3件（各50万円枠）が地域に貢献する研究課題として採択された。選考委員会委員長に名和田学長、副委員長に伊藤信勝田川市長が就任し、公開協議において採択課題が決定された。共同研究事業費は田川市が負担する。

- ・福岡県立大学周辺安全対策検討委員会

大学周辺の安全を図るため、行政、大学、地域、警察等が一体となって対策を推進する仕組みが発足し、平成23年度は毎月1回の会議を行ってきた。周辺地域において防犯灯を8基、防犯カメラを2基設置した。

⑤附属研究所を中心とした活動

- ・総合型地域スポーツクラブの運営と地域スポーツの拠点作り
大学と地域が共同で取り組む総合型地域スポーツクラブ「EASTクラブ」を展開している。県立大学グラウンドでは、毎週水曜日17時より、小学校4年生～6年生の男子児童60名がサッカーを行っている。また田川地域の総合型地域スポーツクラブ間のスポーツ大会を主催し、2日間で延べ681名（未就学児～70歳代）の参加を得た。
- ・県大杯の企画運営
「不登校・ひきこもりサポートセンター」、「生涯福祉研究センター」が連携して、県内特別支援学校のサッカークラブ間の試合を行った。平成23年度は第2回となる。併せて第2回サッカー絵画コンクールも開催し、サッカー部以外の生徒たちの参画を可能とした。
- ・森林環境保全活動の取組
福岡県環境部自然環境課及び福岡県教育委員会とタイアップし、英彦山の人工林における生物多様性の確保のための取組を行っている。15名の学生が森づくりサークル「どうぶつの森」を結成し、積極的な保全活動に取り組んでいる。学生たちは英彦山における宿泊研修に2回、森林伐採研修に1回参加した。11月には植生調査及び企業とタイアップした森林環境保全活動を行った。
- ・里山環境保全活動の取組
田川市上伊加利地区における地域住民主導の里山保全活動に協働参加している。湿地型ビオトープの保全及び雑木林型ビオトープの開発等に従事し、さらには広報活動にも協力し、パンフレットの作成を行った。なお平成23年度は企業が協働している。
- ・鎮西プロジェクトの地域展開
平成22年度まで大学主導で行ってきた鎮西プロジェクトを地域協議会主導型へと転換を図っている。3月には本学学生と小中学生が校区を語り歩く”第3回鎮西ウォーク”を行った。
- ・東日本大震災被災地支援活動
平成23年6月から被災地支援として”福島の子どもたちへ”プロジェクトを開始した。地元の方々の協力にて畑を借り、サツマイモの栽培を行った。大学院生、学生、環境保全サークル「どうぶつの森」、卒業生、地域の方々、教員が協働してサツマイモを育て収穫した。福島市内の保育園へ11箱のサツマイモを送ることができた。送料は200名が参加したチャリティー・フットボール大会（周辺安全対策検討委員会主催）にて集めた募金によった。
- ・地域商店街活性化支援活動
後藤寺商店街活性化に取り組んでいる。環境保全サークル「どうぶつの森」が”後藤寺雛めぐり”の期間中、空き商店をサテライトとして活用し、スタンプラリーを主催。併せて木育活動（端材利用のウッドクラフト）を8日間連続で行い、多くの子どもたちで商店街が賑わうことに貢献している。今年は2年目の参画であった。

⑥第30回日本思春期学会総会・学術集会

30周年記念大会を福岡市にて主催・運営した。市民公開講座には市民が367名、学術集会には専門家409名が参加した。

⑦教員免許状更新講習の開講

平成21年度から教員免許更新制が導入されたことに伴い、文部科学省の認可を受けて、平成23年8月に4講座を開講した。
その内容は、全教員を対象とした教育の最新事情を1講座、養護教諭・高校教諭等を対象とした教育内容の充実が3講座である。

講座の概要

講習期間	講義の名称	主な受講対象者	時間数	受講者数
8月23、24日	教育の最新事情	全教員	12時間	100人
8月16日	疾病の理解と病弱児への支援	養護教諭、教諭(特別支援教育、看護、保健)	6時間	40人
8月17日	生命の誕生と生き方への支援	養護教諭、教諭(特別支援教育、看護、保健)	6時間	40人
8月18日	歯の健康とQOLを支える食と救急	養護教諭、教諭(特別支援教育、看護、保健)	6時間	40人
			計 30時間	計 220人

項目別の状況

<p>中期目標 4. 業務運営</p>	<p>「理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を策定し、大学の有する資源を最大限に活用して、主体的・自律的な大学運営を確立する。 理事長を補佐するため、事務局による支援体制を強化する。</p>
-------------------------	---

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
<p>1 運営体制の改善 教育研究の発展及び 地域貢献推進のため 理事長のリーダーシッ プによる戦略的な業 務運営体制の確立を 推進する。</p>	<p>1 【全学的視点からの戦略的な学 内資源配分の実施と事務局機能 の強化】 理事長が中心となって策定した 教育研究目標に従って、予算及 び人員の効率的配分を行う。</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○プロジェクト研究（研究奨励交付金）の促進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 研究奨励交付金制度を設け平成19年度から実施することとした。 ・平成19年度 両学部のプロジェクト研究（3テーマ：アジア、地域貢献、学内教育）と個別研究（各学部共同、個人研究）に19,340千円を資源配分 ・平成20年度 プロジェクト研究8件（10,340千円）、個別研究23件（9,000千円）を採択 ・平成20年度 プロジェクト研究2年間の研究報告会を行い、報告書を発刊 ・平成21年度 プロジェクト研究 7件（10,111千円）、個別研究 22件（8,992千円）を採択 ・平成22年度 プロジェクト研究 10件（10,096千円）、個別研究 32件（8,975千円）を採択 ・平成23年度 プロジェクト研究 10件（11,110千円）、個別研究 26件（7,641千円）を採択 <p>○学内業務の見直し・支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 業務実態から電話交換業務の外部委託、保健師の嘱託化、公用車の廃止を行った。 ・平成19年度 学部業務の支援のため、両学部に各1名の事務補助スタッフ、学生支援班に国際交流業務スタッフを1名配置 ・平成20年度 これらに加え業務委託、プロパー職員導入などを検討 ・平成21年度 助教制度導入による教育体制を充実（助手から助教への昇任2名、新規採用4名） ・平成21年度 博士課程設置検討ワーキンググループで博士課程の検討を行った。規程を整備して特任教授を活用する体制を取った（各学部1名）。また看護学部に臨床教授制度を導入した。 ・平成22年度以降 事務局にホームページ・PCヘルプデスク専門職員の雇用を開始して、情報処理関係の問題解決に迅速かつ的確に対応 ・平成23年度 プロパー職員採用試験を公立三大学で共同実施し、翌24年度から雇用する2名の合格者を決定

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
1 運営体制の改善	2 【教育研究組織の編成・見直し】 理事長のリーダーシップのもとに行われる大学全体の自己点検・評価等に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しを行う。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○全学的カリキュラムの検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度 全学的にカリキュラム再編・教育内容の見直しのワーキンググループを設置 ・平成19年度 全学カリキュラム検討委員会を設置、助教制度の導入、人間社会学部社会学科を「公共社会学科」に変更 ・平成20年度 全学教務部会として、全学的視点からカリキュラム改革などに取り組んだ。 <p>○看護学部講座制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18～20年度 中期計画に基づく教育・研究体制の見直しを行い、看護学部は平成21年度に講座制から学系制に変更 ・将来計画（専門看護師・認定看護師養成）と指定規則の改正に伴うカリキュラム変更を視野に入れた人事方針案を検討 <p>○特任教授の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成19～23年度 継続して実施 <p>○助教制度導入による教育体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学部：平成20年7月に7名が助手から助教へ昇任 ・平成21年度以降 助手の助教への昇任及び助教の新規採用を進めた。 <p>○博士課程の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度 ワーキンググループを設置し、以後継続して検討 <p>○特任教授の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部：1名、看護学部：1名 <p>○臨床教授制の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年4月導入に向け、平成20年度「福岡県立大学看護学部臨床教授等の称号付与規程」を整理し、各病院に推薦依頼を実施 ・平成21年度 称号付与 ・平成23年度 称号付与に係る規定の一部改正。称号付与事務の省力化を図った。 <p>○看護学部の学系制へのスムーズな移行促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度 共同研究室・教員研究室の整備、移行に伴う各種規程等の整備及び看護学部運営システムの構築。学系調整会議及び学系会議を月1回開催。助手会と学部長との対話集会を年に2回持ち、そこで出された質問や意見を吸い上げ、運営体制改善につなげた。FD講演会を開催し、研究及び教育への意識を高め、教員それぞれが大学内での役割を確認した。 <p>【新たな取組】</p> <p>○平成20年度 看護学部創立10年目に目標を置いた看護学部再生マスタープラン「看護学部の教育・研究体制の見直しと将来構想」を策定</p> <p>○平成21年度 特任教員規程、客員教員規程を作成し、人間社会学部に特任教授の任用、看護学部に特任准教授の任用及び客員教員への委嘱を行った。</p>

中期計画		計画の実施状況																																			
項目	実施事項																																				
1 運営体制の改	3 【安全管理体制の充実】 ①学内体制の整備（災害時対策基準の策定） ②学生の事故対策（ヒヤリハット報告に基づく実習事故再発防止の事例検討実施） ③防災・防犯対策（講習会開催、学生寮の避難訓練実施）	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○災害時の学内体制の整備 ・平成18年度 災害対応マニュアル作成</p> <p>○学生の事故対策：実習の手引きの配布、ヒヤリハット報告に基づき、対策を検討し、冊子を作成・配布 ・事例検討を評価し、事故再発防止策を作成</p> <p>○防犯講習会の開催：4月に新入生、在学生会は適宜講習会を開催 ・防犯啓発パンフレットの配布 ・薬物乱用防止講習会など開催 ・防災訓練 全学及び学生寮を対象に、消防訓練を実施</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防犯・防災講習会</td> <td>年2回</td> <td>年2回</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> <td>年3回</td> <td>年3回</td> </tr> <tr> <td>学生寮の避難訓練</td> <td>年0回</td> <td>年0回</td> <td>年1回</td> <td>年2回</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> </tr> <tr> <td>消防訓練</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> </tr> <tr> <td>薬物乱用防止</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>年1回</td> <td>年1回</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	防犯・防災講習会	年2回	年2回	年1回	年1回	年3回	年3回	学生寮の避難訓練	年0回	年0回	年1回	年2回	年1回	年1回	消防訓練	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	薬物乱用防止	-	-	-	-	年1回	年1回
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
防犯・防災講習会	年2回	年2回	年1回	年1回	年3回	年3回																															
学生寮の避難訓練	年0回	年0回	年1回	年2回	年1回	年1回																															
消防訓練	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回																															
薬物乱用防止	-	-	-	-	年1回	年1回																															

中期計画		計画の実施状況													
項目	実施事項														
2 人事の適正化 戦略的・効果的に人的資源を活用し、非公務員型を生かした柔軟かつ多様な人事システムを構築する	1 【教員の個人業績評価システムの導入と給与への反映】 ①評価対象を教育(FD活動を含む)・研究・地域貢献・学内運営とし、各分野のウェイト付け、各評価項目の評価基準及び評価者の確定、評価項目に応じた評価期間の設定等を行う。 ②評価結果を給与に反映させる。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>教員個人業績評価については、毎年度4月に自己申告書を提出させ、6～7月に一次及び二次評価を実施し、8月にその結果を通知し、12月に評価結果を給与に反映させている。</p>													
	2 【任期制の導入】 全教員を対象とした任期制を導入する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○教員の任期制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度から新規採用教員に対して適用し、定年制の適用となっている承継教員に対しても申し出期間を設定し、2名が任期制に移行した。 ・平成19年度の新規採用教員に対し任期制を適用。また、任期制適用教員18名が定年制へ移行した。 ・平成20年度以降23年度まで、引き続き新規採用教員に対して任期制を適用した。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>任期制教員</td> <td>52.9%</td> <td>42.5%</td> <td>45.7%</td> <td>51.4%</td> <td>57.3%</td> <td>58.3%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	任期制教員	52.9%	42.5%	45.7%	51.4%	57.3%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23									
任期制教員	52.9%	42.5%	45.7%	51.4%	57.3%	58.3%									

業務運営に関する特記事項

法人化後、全教職員を対象とした大学改革セミナーを開催するなど、教職員の意識改革に積極的に取り組んでいる。

- ・平成19年度 4回開催 「新しい時代の組織・マーケティング論」(ビジネスコンサルタント 日本科学未来館副館長) 他3回
- ・平成20年度 5回開催 「裁判員制度のポイント解説」(福岡地方裁判所田川支部裁判官) 他4回
- ・平成21年度 1回開催 「(1)平成20年度業務実績評価報告について、(2)「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」の採択」(学内)
- ・平成22年度 4回開催 「世界の保健医療福祉看護の現状と課題」(近大姫路大学学長) 他3回
- ・平成23年度 3回開催 「与えられた一度の人生」(学外理事) 他2回

項目別の状況

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、重要な自己財源である学生納付金のあり方について検討するとともに、外部研究資金の獲得に努め、社会人向け教育サービスや資産の有効活用などによる新たな収入の確保にも積極的に取り組む。 経費については、人員配置や業務内容の見直しを推進し、その抑制を図る。</p>
-----------------------	--

中期計画		計画の実施状況																																	
項目	実施事項																																		
<p>1 自己収入の増加 学生納付金のあり方を検討する。また、固定資産の活用や外部研究費の獲得等により、収入の増加を図る。</p>	<p>1 【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②学生納付金の未納に対する取組を強化する。 ○達成目標 ・学生納付金収納率：100%</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○過年度分未納者への取組について ・平成18年度 未納者に対し電話及び面接を実施 ・平成19年度 少額訴訟状案を内容証明付で送付し督促の強化に努めた。 ・平成20年度 支払い能力に応じた債務弁済契約を締結、所在不明者については債権放棄を実施 ・平成21年度 未納者に対する除籍についての除籍基準日及び除籍時期について検討した。また、過年度分未納者に対し、支払い能力に応じた分割納付を推進し、債務弁済契約を締結することで時効の中断に努めた。 ・平成22年度 分割納付者に対し毎月の返済が滞らないよう支払期日の厳守について電話にて徹底した催促を実施 ・平成23年度 滞りが2カ月を超えた分割納付者に対する期日厳守の通知及び未納者に対する督促を実施</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>未納率</td> <td>0.6%</td> <td>0.4%</td> <td>0.4%</td> <td>0.1%</td> <td>0.3%</td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table>								H18	H19	H20	H21	H22	H23	未納率	0.6%	0.4%	0.4%	0.1%	0.3%	0.2%													
		H18	H19	H20	H21	H22	H23																												
未納率	0.6%	0.4%	0.4%	0.1%	0.3%	0.2%																													
<p>2 【その他の料金による収入の確保】 ①教室、講堂等の大学施設を開放し使用料金を徴収する。また、適切な施設はテナント貸しし、自己収入の増加に努める。 ②リカレント教育、キャリアアップ教育等における研修会の料金を設定し、徴収する。</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○施設貸出による使用料収入の確保について ・平成18年度 市場調査を行い、施設貸出要綱を制定 ・平成19、20年度 ホームページや広報誌に施設貸出料金を掲載し、積極的な周知を図った。 ・平成21年度 施設の貸出において、重複の申込みがあれば、可能な限り日程調整を行い施設の有効活用を図った。 ・平成22年度 地域でのイベント等利用促進のため、ホームページ等での情報発信を実施 ・平成23年度 利用者数に応じた施設利用調整を行い、使用料収入の増に努めた。</p> <p>○公開講座及び研修会による収入確保について ・平成19、20年度 地域に根ざした課外講座を開設 ・平成21年度 ヒーリング講習会東京コースや、地域に根ざした公開講座を実施 ・平成22年度 地域の多くの方に受講してもらうため、田川市記者クラブにプレスリリースするとともにホームページに掲載し周知を図った。 ・平成23年度 公開講座のポスター・チラシを作成し、地域住民及び市町村に配布し参加を呼びかけた。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>施設使用料</td> <td>319千円</td> <td>599千円</td> <td>941千円</td> <td>817千円</td> <td>906千円</td> <td>752千円</td> </tr> <tr> <td>財産貸付料</td> <td>241千円</td> <td>542千円</td> <td>550千円</td> <td>562千円</td> <td>561千円</td> <td>557千円</td> </tr> <tr> <td>研修会等料金</td> <td>0千円</td> <td>2,096千円</td> <td>2,162千円</td> <td>9,508千円</td> <td>4,171千円</td> <td>6,411千円</td> </tr> </tbody> </table>								H18	H19	H20	H21	H22	H23	施設使用料	319千円	599千円	941千円	817千円	906千円	752千円	財産貸付料	241千円	542千円	550千円	562千円	561千円	557千円	研修会等料金	0千円	2,096千円	2,162千円	9,508千円	4,171千円	6,411千円
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																													
施設使用料	319千円	599千円	941千円	817千円	906千円	752千円																													
財産貸付料	241千円	542千円	550千円	562千円	561千円	557千円																													
研修会等料金	0千円	2,096千円	2,162千円	9,508千円	4,171千円	6,411千円																													

中期計画		計画の実施状況																					
項目	実施事項																						
2 経費の抑制の	<p>2 【光熱水費・通信費の節減】 省エネ推進期間の設定など、省エネルギー対策等を徹底して実施し、光熱水費の節減に努める。</p> <p>○達成目標 ・光熱水費・通信費削減率 ：通信費を5%削減（平成17年度比） 看護学部完成年度（平成18年度）中に電気・水道・灯油使用料の節減目標設定</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <p>○通信費の削減に向けて ・平成18～20年度 宅配業者のメール便及びIP電話の導入 ・平成21年度 FAXによる通信をできる限り、メールに切り替えるなど通信費の削減に取り組んだ。 ・平成22年度 通信費の節減に向けて、メール便業者を郵便局に変更契約を行った結果、通信費の節減が図られた。 ・平成23年度 郵メールの周知・徹底による活用により通信費の節減が図られた。</p> <p>○光熱水費の削減に向けて ・平成18～20年度 教職員の節減意識の徹底と契約電力の形態の変更を行った。 ・平成21年度 光熱水費の大半を占めている電気料の削減に向け、パソコン機器を始め室内照明のこまめな消灯を実施 ・平成22年度 光熱水費の節減に向けて、大半を占める電気料の軽減を図るため、大講義室等の夏場の冷房温度28度を徹底する取組を実施 ・平成23年度 徹底した冷暖房設定温度を始めとする節電対策に取り組んだ。</p> <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>費用(金額)</th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通信費(対H17年度比)</td> <td>96.5%</td> <td>78.2%</td> <td>87.1%</td> <td>95.0%</td> <td>79.7%</td> <td>79.8%</td> </tr> <tr> <td>光熱水費(前年度比)</td> <td>96.5%</td> <td>108.7%</td> <td>103.0%</td> <td>93.4%</td> <td>108.6%</td> <td>104.2%</td> </tr> </tbody> </table>	費用(金額)	H18	H19	H20	H21	H22	H23	通信費(対H17年度比)	96.5%	78.2%	87.1%	95.0%	79.7%	79.8%	光熱水費(前年度比)	96.5%	108.7%	103.0%	93.4%	108.6%	104.2%
費用(金額)	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
通信費(対H17年度比)	96.5%	78.2%	87.1%	95.0%	79.7%	79.8%																	
光熱水費(前年度比)	96.5%	108.7%	103.0%	93.4%	108.6%	104.2%																	

項目別の状況

中期目標 6. 評価	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、その評価結果を速やかに公表する。 計画・実行・評価・改善の仕組みを確立し、教員の個人業績評価、県評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。
----------------------	--

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
1 評価の充実 自己点検・評価及び各種評価結果を大学運営に反映し、改善を図る。また、教員の個人業績評価の評価結果を給与に反映させ、大学運営の改善につなげる。	1 【自己点検・評価の実施と結果の公開及び各種評価結果の大学運営への反映】 ①本学の教育・研究及び組織運営に関して評価を実施し、評価結果の改善に努める。また、評価結果を公開する。 ②認証評価機関や県評価委員会の評価結果を大学運営に反映させる。	【中期目標期間の実施状況】 ○自己点検・評価について ・平成18、19年度 ①前年度の専任教員の「教育・研究・社会貢献一覧」を作成。また②学生による授業評価アンケート結果を報告書として刊行し、その見直しを行った。 ・平成20、21年度 ①②担当をFD部会に変更し、実施。またアンケート項目、自己点検・評価内容(研究)を見直した。 ・平成22年度 専任教員の教育・研究業績評価を実施 ○県評価委員会の評価結果の反映について ・平成18～22年度の評価結果は、学長による評価結果報告会を開催し、全教職員が問題点を共有することにより、中期計画への参画意識を高め、次年度の取組に反映させた。 ○年度計画に対する自己点検・評価について ・平成19～23年度 毎年度、計画進捗管理・責任者・担当者会議を年4回実施 ○認証評価について ・平成19年度 平成22年度学位授与機構による認証評価の準備着手のため担当部会を平成20年3月に設置決定 ・平成20年度 4月に担当部会を設置し、部会規則を制定。また認証評価機関の説明会に正副部長が出席。大学改革セミナーで2回全学教職員に評価の概要と必要な取組を説明。受審に必要な「取組」と「書類」を整理。「研究」の実態調査等の活動を行った。 ・平成21年度 大学評価・学位授与機構に平成22年度受審の申し込みを実施。また認証評価説明会と研修会に担当教員理事等4名が参加。認証評価のための「自己評価書」原案を作成 ・平成23年度 次回認証評価に向けての体制整備ができるよう、次期中期計画に盛り込んだ。
	2 【教員の個人業績評価システムの導入と給与への反映】 教員の個人業績評価システムを導入し、評価結果を給与に反映する。	【中期目標期間の実施状況】 教員個人業績評価については、毎年度4月に自己申告書を提出させ、6～7月に一次及び二次評価を実施して、8月にその結果を通知し、12月に評価結果を給与に反映させている。

項目別の状況

<p>中期目標 7. 情報公開</p>	<p>「情報公開を積極的に推進する。」 入学希望者、学生、県民、企業などに対し、次のような情報を積極的に提供する。 ・大学や教員の評価に関する情報 ・組織、教職員、施設設備、入学試験などに関する情報 ・カリキュラム、シラバス、教員の研究成果や地域貢献活動などに関する情報 ・学生の就職支援や卒業生の進路状況に関する情報 ・公開講座、大学施設の開放などに関する情報 ・予算や決算など財務に関する情報</p>
-------------------------	--

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
<p>1 情報公開等の推進 本学の教育理念、教育・研究内容、社会貢献活動等について積極的に情報公開する。</p>	<p>1 【情報公開等の推進】 ①情報公開・広報活動体制を確立する。 ②シラバス、研究成果、入学試験、就職、事業計画等、教育・研究・組織運営情報を公開する。 ③多様な媒体（出版物、ホームページによる広報、マスメディアの活用）を通して広報活動を充実する。 ④情報公開と個人情報保護に適切に対応しうる情報管理体制を構築する。</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】 ○種々の情報公開・広報活動 ・平成18年度 個人情報保護規程を制定するとともに、プロジェクトチームを組織し管理体制を構築 ・平成19年度 英語版ウェブサイトの開設、携帯電話とのリンク、記載事項の追加等によりHPの充実を図った。 ・平成20年度 HP管理・運用要綱と情報保全規則を策定。高校向けの新たな広報活動として「出前講座」（84講座）を設定し、HP上に掲載 ・平成21年度 ホームページを全面的にリニューアルした。掲載方式（アップロード）を申請方式から部局責任者の承認制に変更し改善を図った。 ・平成23年度 平成20年度から検討を進めてきた「プレスリリース体制」を整備し、学内周知徹底を図った。</p>

項目別の状況

その他中期計画において定める事項

中期計画		計 画		実 績	
I 収支計画予算 及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(単位：百万円)		(単位：百万円)	
		区分	金額	区分	金額
		費用の部	10,754	費用の部	11,672
		業務費	9,425	業務費	9,916
		教育研究経費	1,659	教育研究経費	1,797
		人件費	7,766	受託研究費等	251
		一般管理費	1,329	人件費	7,868
		(減価償却費 再掲)	(713)	一般管理費	1,436
				(減価償却費 再掲)	(480)
		収益の部	10,754	財務費用	13
		運営費交付金収益	5,683	雑損	1
		授業料収益	3,347	臨時損失	304
		入学金収益	664		
		検定料収益	162	収益の部	11,841
		雑益	135	運営費交付金収益	6,152
		受託研究等収益	50	授業料収益	3,350
		寄附金収益	0	入学金収益	736
		資産見返運営費交付金等戻入	40	検定料収益	164
		資産見返物品受贈額戻入	673	その他業務収益	1
				受託研究等収益	34
		純利益	0	受託事業等収益	220
				補助金等収益	52
				寄附金収益	6
				資産見返運営費交付金等戻入	45
				資産見返補助金等戻入	3
				資産見返寄附金戻入	9
				資産見返物品受贈額戻入	444
				財務収益	6
				雑益	232
				臨時利益	378
				純利益	168
				※増減の主な理由 ■費用の部 ・教育研究経費 教育研究に係る委託料等の増による ・受託研究費等 外部資金獲得に伴う増による ・人件費 教員人件費等の増による ・一般管理費 施設・設備の老朽化、設備増に伴う維持費の増による ■収益の部 ・受託事業等収益 外部資金獲得に伴う増による	

中期計画		計 画		実 績	
I 収支計画予算 及び資金計画予算	2. 資金計画予算	(単位：百万円)		(単位：百万円)	
		区分	金額	区分	金額
		資金支出	10,183	資金支出	11,359
		業務活動による支出	10,041	業務活動による支出	10,474
		投資活動による支出	142	投資活動による支出	451
		財務活動による支出	0	財務活動による支出	87
				次期中期目標期間への繰越金	346
		資金収入	10,183	資金収入	11,359
		業務活動による収入	10,183	業務活動による収入	11,350
		運営費交付金による収入	5,825	運営費交付金による収入	6,200
		授業料等による収入	4,174	授業料等による収入	4,316
		受託研究等による収入	50	受託研究等による収入	255
		その他収入	134	補助金による収入	320
		投資活動による収入	0	寄附金による収入	4
		財務活動による収入	0	その他収入	241
				預り金等による純増加額	10
				投資活動による収入	9
				財務活動による収入	0
				前期中期目標期間よりの繰越金	
II 短期借入金の限度額		1. 短期借入金の限度額 3億円		該当なし	
		2. 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。			
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		なし		該当なし	
IV 剰余金の使途		決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度から平成23年度までに取り崩した教育研究等改善目的積立金合計156百万円を、次のとおり教育研究の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 ・平成21年度 空調機器の整備ほか 17百万円 ・平成22年度 すずかけ寮の整備ほか 56百万円 ・平成23年度 附属研究所新築工事ほか 82百万円 	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項		1. 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることのできる積立金の処分に関する計画 なし		該当なし	
		2. その他法人の業務に関し必要な事項 なし			